

### 第3章 調査結果のまとめ



# 1. 学校図書館所蔵資料整備状況調査

## (1) 蔵書冊数

〔蔵書冊数、「学校図書館図書標準」(1)達成率、児童一人あたりの蔵書冊数〕

	学校名	学級数	児童数	蔵書冊数	図書標準冊数	図書標準達成率	児童一人あたりの蔵書冊数
1	東小学校	14	289	8,388	8,760	95.8%	29.0
2	西小学校	10	210	8,348	7,000	119.3%	39.8
3	南小学校	8	198	7,608	6,040	126.0%	38.4
4	北小学校	14	321	11,501	8,760	131.3%	35.8
5	林田小学校	16	314	10,307	9,560	107.8%	32.8
6	鶴山小学校	21	536	10,430	10,960	95.2%	19.5
7	弥生小学校	21	557	9,578	10,960	87.4%	17.2
8	向陽小学校	15	293	8,009	9,160	87.4%	27.3
9	院庄小学校	8	173	8,600	6,040	142.4%	49.7
10	佐良山小学校	14	344	9,580	8,760	109.4%	27.8
11	一宮小学校	20	548	9,871	10,760	91.7%	18.0
12	高田小学校	7	139	6,733	5,560	121.1%	48.4
13	清泉小学校	7	89	7,947	5,560	142.9%	89.3
14	高倉小学校	8	123	7,419	6,040	122.8%	60.3
15	高野小学校	17	486	12,542	9,960	125.9%	25.8
16	成名小学校	8	113	7,943	6,040	131.5%	70.3
17	河辺小学校	14	314	8,883	8,760	101.4%	28.3
18	大崎小学校	9	195	9,000	6,520	138.0%	46.2
19	広野小学校	7	89	5,684	5,560	102.2%	63.9
20	加茂小学校	8	209	3,328	6,040	55.1%	15.9
21	阿波小学校	5	33	4,665	4,560	102.3%	141.4
22	新野小学校	8	157	6,288	6,040	104.1%	40.1
23	広戸小学校	7	78	7,364	5,560	132.4%	94.4
24	勝加茂小学校	7	137	7,091	5,560	127.5%	51.8
25	喬松小学校	7	62	5,351	5,560	96.2%	86.3
26	中正小学校	8	82	5,619	6,040	93.0%	68.5
27	誠道小学校	7	85	4,544	5,560	81.7%	53.5
28	秀実小学校	8	95	6,534	6,040	108.2%	68.8
	合計	303	6,269	219,155	201,720	-	-
	28校の平均	10.8	223.9	7,827	7,204.3	110.0%	49.6

学級数、児童数は「平成23年度津山市の教育」による

各校の蔵書冊数、「学校図書館図書標準」(以下「図書標準」という。)達成率、児童一人あたりの蔵書冊数を表にまとめました。全28校の蔵書冊数を合計すると219,155冊。蔵書冊数の最も多い小学校は12,542冊で、最も少ない小学校は3,328冊という状況です。

児童一人あたりの蔵書冊数が最も多い小学校は141.4冊で、最も少ない小学校は15.9冊。全蔵書冊数219,155冊を全児童数6,269名で除して求めた全児童一人あたりの蔵書冊数は35冊という状況です。

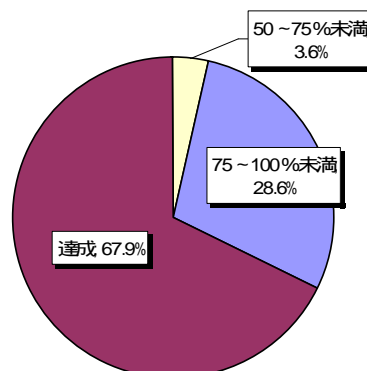
1 「学校図書館図書標準」: 公立の義務教育諸学校において、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として、学校規模に応じた標準冊数を定めたもの。学級数を基準に定められた計算式によって求める。

## 「学校図書館図書標準」の達成状況

学校図書館の蔵書冊数が文部科学省の設定する図書標準を達成している小学校は、全 28 校のうち 19 校で 67.9%に達しています。また、達成率 75～100%未満の小学校が 8 校（28.6%）、50～75%未満の小学校が 1 校（3.6%）、達成率 50%未満の小学校は 1 校もないという状況でした。

〔津山市立小学校全 28 校の図書標準達成状況〕

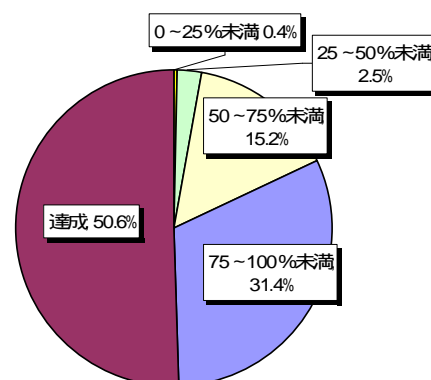
図書標準達成率	校数	割合
100%以上	19 校	67.9%
75～100%未満	8 校	28.6%
50～75%未満	1 校	3.6%
25～50%未満	0 校	0%
0～25%未満	0 校	0%



【津山市立小学校図書標準達成割合】

〔全国の公立小学校 21,180 校の図書標準達成状況〕

図書標準達成率	校数	割合
100%以上	10,710 校	50.6%
75～100%未満	6,654 校	31.4%
50～75%未満	3,209 校	15.2%
25～50%未満	531 校	2.5%
0～25%未満	76 校	0.4%

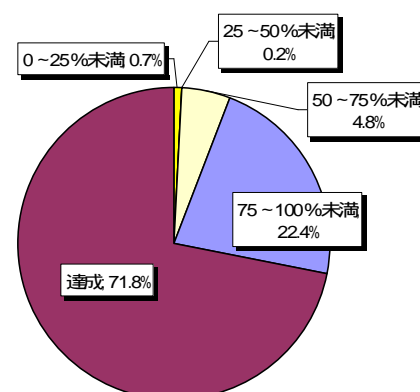


【全国の公立小学校図書標準達成割合】

文部科学省「平成 22 年度『学校図書館の現状に関する調査』結果」による(平成 21 年度末現在) ( 2 )

〔岡山県内の公立小学校 415 校の図書標準達成状況〕

図書標準達成率	校数	割合
100%以上	298 校	71.8%
75～100%未満	93 校	22.4%
50～75%未満	20 校	4.8%
25～50%未満	1 校	0.2%
0～25%未満	3 校	0.7%



【岡山県内の公立小学校図書標準達成割合】

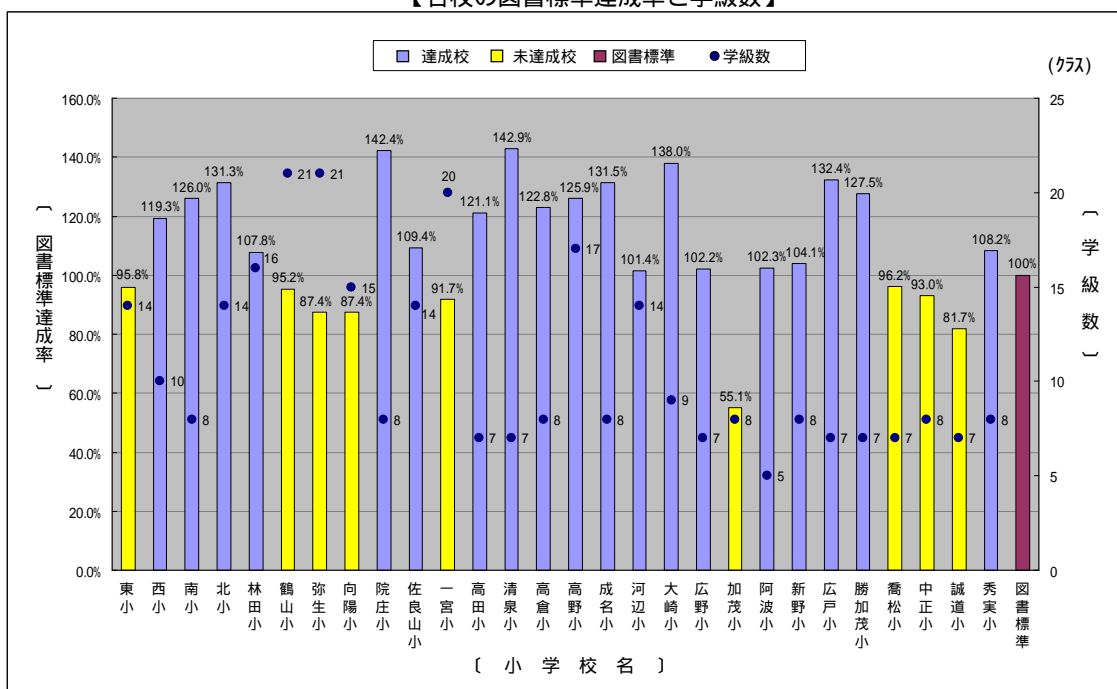
文部科学省「平成 22 年度『学校図書館の現状に関する調査』結果」による(平成 21 年度末現在) ( 2 )

文部科学省による「平成 22 年度『学校図書館の現状に関する調査』結果」(平成 23 年 6 月 1 日) ( 2 ) にて公表されている、全国および岡山県内の公立小学校の図書標準達成率と比べてみると、市内全 28 校の図書標準達成率 67.9%は、全国の達成率 50.6%より高いものの、岡山県内の達成率 71.8%と比べると低いという状況です。なお、同調査時点における市内全 28 校の達成率は 60.7% ( 17 校 ) であり、1 年間で達成校が 2 校増えています。

2 文部科学省初等中等教育局児童生徒課「平成 22 年度『学校図書館の現状に関する調査』結果について(概要)」 URL [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/23/06/1306743.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/06/1306743.htm)

図書標準の達成状況を学校別に見てみると、図書標準に達していない小学校9校のうち、学級数が18学級以上の小学校が3校、12学級以上17学級未満の小学校が2校、11学級以下の小学校が4校という状況でした。

【各校の図書標準達成率と学級数】



〔学級数別図書標準達成状況〕

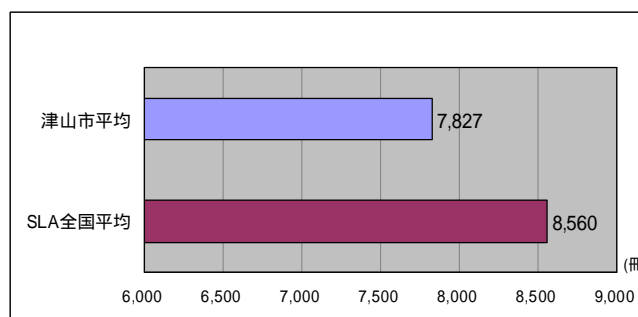
	図書標準達成率 100%以上	図書標準達成率 100%未満	計
18学級以上の学校	0校	3校	3校
12学級～17学級未満の学校	5校	2校	7校
11学級未満の学校	14校	4校	18校
計	19校	9校	28校

### 平均蔵書冊数

全28校の蔵書冊数を平均すると7,827冊（平均11学級・224名）となります。

社団法人全国学校図書館協議会（全国SLA）の「2010年度学校図書館調査報告」（3）による、全国の小学校の平均蔵書冊数8,560冊（平均14学級・360名）と比べると、全28校の平均蔵書冊数は733冊（約1割程度）少ない状況にあります。

【平均蔵書冊数】



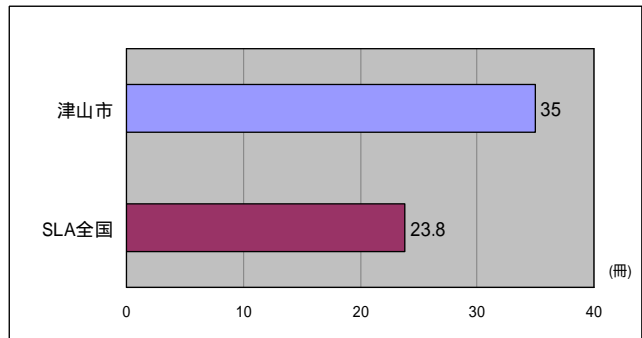
3 全国SLA研究調査部「2010年度学校図書館調査報告」『学校図書館』 721, 2010.11, p.45-62.  
調査方法の概要 調査者=全国学校図書館協議会, 調査時期=2010年6月, 調査対象=全国の小・中・高校から都道府県ごとに3%無作為抽出1,279校, 回答校および回収率=小学校346校(回収率48.6%), 児童生徒数=小学校平均14学級・360名

### 児童一人あたりの蔵書冊数

全 28 校の蔵書冊数の総和を全児童数の総和で除して求めた、全児童一人あたりの蔵書冊数は 35 冊になります。

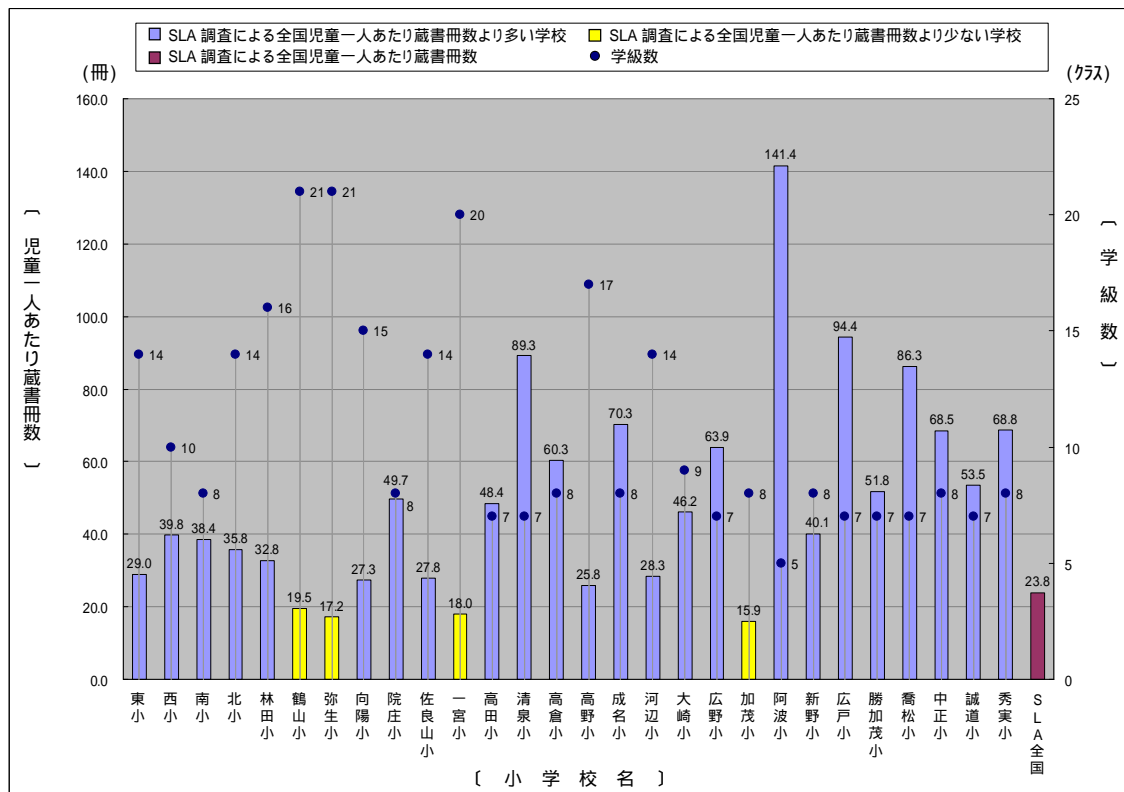
「2010 年度学校図書館調査報告」による、全国の児童一人あたりの蔵書冊数（4）である 23.8 冊と比べると、津山市の児童一人あたりの蔵書冊数は 11.2 冊（約 1.5 倍）多い状況にあります。

【児童一人あたりの蔵書冊数】



児童一人あたり蔵書冊数を学校別に見てみると、「2010 年度学校図書館調査報告」による全国の児童一人あたりの蔵書冊数と比べて、児童一人あたりの蔵書冊数が少ない小学校は 4 校です。そのうち、学級数が 18 学級以上の小学校が 3 校、11 学級以下の小学校が 1 校という状況でした。

【各校の児童一人あたり蔵書冊数と学級数】



4 調査対象となった学校すべての蔵書冊数の総和を、すべての児童数の総和で除して求めた数字であり、1 校 1 校の一人あたりの蔵書冊数の平均値ではない。

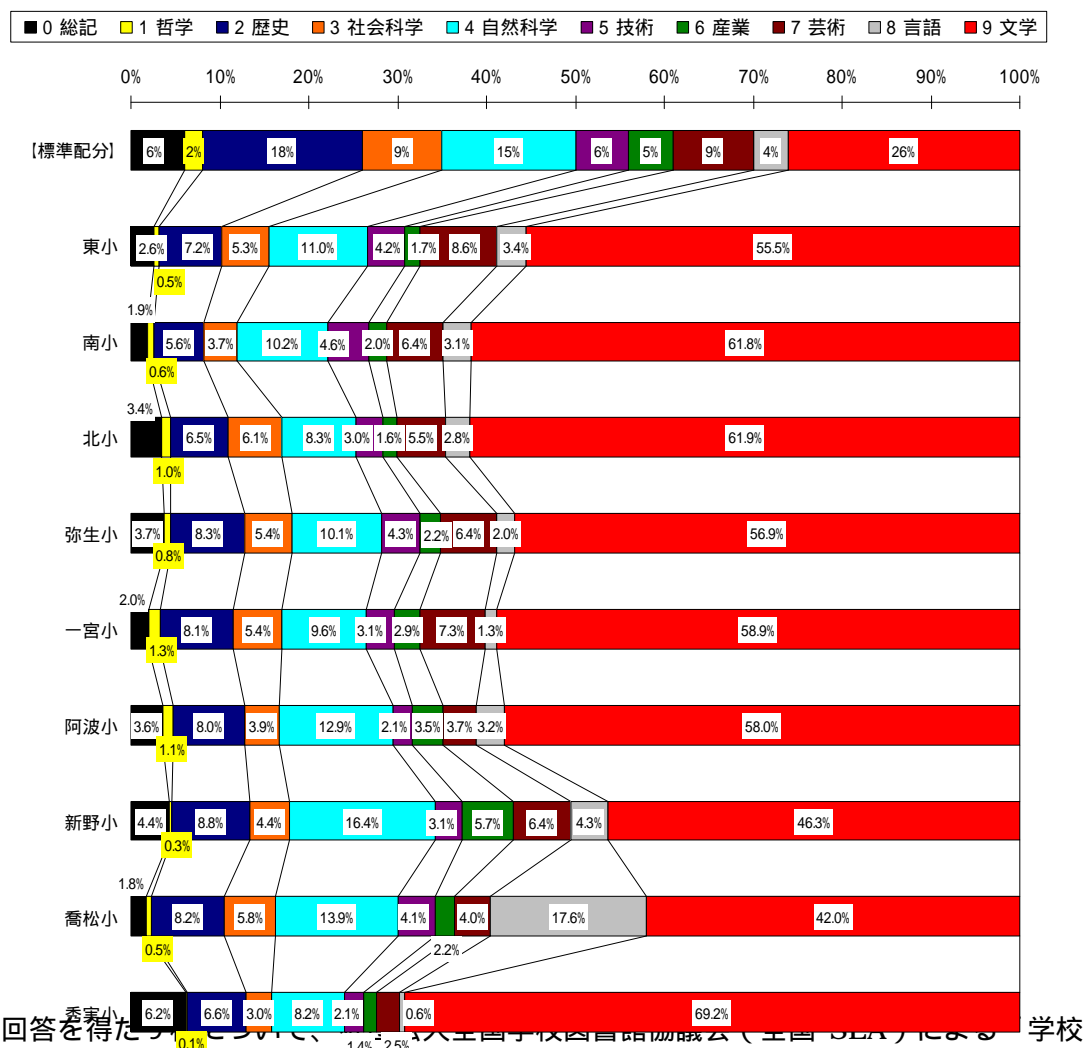
## (2) 蔵書構成

各校の蔵書の日本十進分類法（NDC）（5）による分類比率については、9校から回答を得られました。

〔日本十進分類法による各校の蔵書分類比率状況〕

標準配分	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	合計	
	6%	2%	18%	9%	15%	6%	5%	9%	4%	26%	100%	
学校名	東小	2.6%	0.5%	7.2%	5.3%	11.0%	4.2%	1.7%	8.6%	3.4%	55.5%	100%
	南小	1.9%	0.6%	5.6%	3.7%	10.2%	4.6%	2.0%	6.4%	3.1%	61.8%	100%
	北小	3.4%	1.0%	6.5%	6.1%	8.3%	3.0%	1.6%	5.5%	2.8%	61.9%	100%
	弥生小	3.7%	0.8%	8.3%	5.4%	10.1%	4.3%	2.2%	6.4%	2.0%	56.9%	100%
	一宮小	2.0%	1.3%	8.1%	5.4%	9.6%	3.1%	2.9%	7.3%	1.3%	58.9%	100%
	阿波小	3.6%	1.1%	8.0%	3.9%	12.9%	2.1%	3.5%	3.7%	3.2%	58.0%	100%
	新野小	4.4%	0.3%	8.8%	4.4%	16.4%	3.1%	5.7%	6.4%	4.3%	46.3%	100%
	喬松小	4.4%	0.3%	8.8%	4.4%	16.4%	3.1%	5.7%	6.4%	4.3%	46.3%	100%
	秀実小	6.2%	0.1%	6.6%	3.0%	8.2%	2.1%	1.4%	2.5%	0.6%	69.2%	100%

【日本十進分類法による各校の蔵書分類比率対比状況】



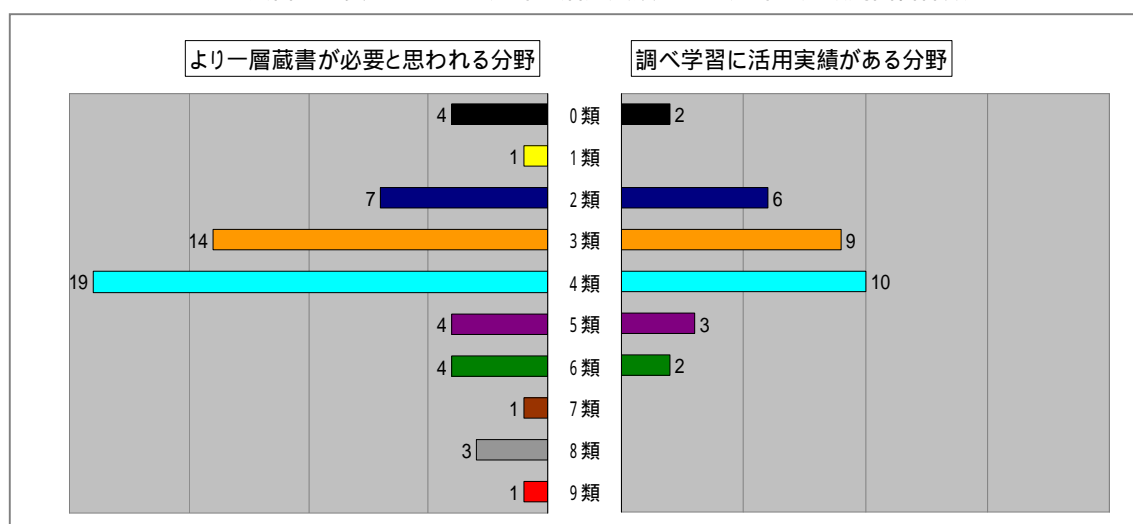
5 日本十進分類法（NDC）：図書进行分类するための方法で日本の図書館の標準的な分類法。Nippon Decimal Classificationの略。社団法人日本図書館協会（JLA）改訂。主にその主題によって図書を分類し、10区分の階層構造からなる。数字をコードとして用いて分類をあらわす。学校図書館では、1948年刊行の文部省「学校図書館の手引き」によって推奨されて以来、広く利用されている。

図書館メディア基準」の小学校における図書の標準配分比率と比べてみると、全体的に9類の文学の比率が極端に高く、蔵書の約半数、または、それ以上を構成しています。反対に、2類の歴史、3類の社会科学の比率が標準配分比率と比べて極端に低く、次いで4類の自然科学、7類の芸術が標準配分比率と比べて低い構成となっています。

〔より一層蔵書が必要と思われる分野と調べ学習に活用実績のある分野〕 複数回答

	より一層蔵書が必要と思われる分野		調べ学習に活用実績がある分野	
0類	4件	年鑑、事典、百科事典	2件	ポプラディア
1類	1件	宗教関係	0件	
2類	7件	地図、地理・歴史、歴史、日本地理、岡山県、津山市、岡山空襲	6件	歴史、日本の歴史、歴史人物、伝記
3類	14件	社会、点字、国際理解、昔の暮らし、ボランティア、職業、世界の国々、修学旅行	9件	社会(写真の多い資料)、昔のあそび、レク、世界の国々、福祉、職業、人権
4類	19件	植物、動物、恐竜、昆虫、理科、図鑑、物理、薬、電気、エネルギー、地震、地形、環境	10件	昆虫、図鑑、動植物、環境、米、大豆
5類	4件	料理、環境	3件	環境、料理
6類	4件	産業、飼育	2件	飼育、米、大豆
7類	1件	デザイン	0件	
8類	3件	英語、俳句、詩集	0件	
9類	1件	読み物	0件	

【蔵書が必要と思われる分野と活用実績がある分野の分類別回答件数】



各校の蔵書のうち、調べ学習に活用された実績がある分野と、より一層蔵書が必要と思われる分野についての調査では、回答数の多い順に、4類（自然科学）、3類（社会科学）、2類（歴史）の分野に活用実績のある資料を所蔵している、という回答があげられました。

一方で、より一層蔵書が必要と思われる分野については、4類（自然科学）が最も多くあげられており、次いで3類（社会科学）、2類（歴史）の順でより一層の蔵書の充実が求められていることがうかがえます。

### (3) 蔵書の更新



## 〔平成22年度 受入冊数、図書購入費、除籍冊数〕

	学校名	H22年度 蔵書 冊数	H22 年度 学級 数	H22 年度 児童 数	H22年度 受入 冊数	1人当 受入 冊数	H22年度 図書 購入費(円)	1人当 図書 購入費 (円)	1冊 あたり 単価 (円)	H22年度 除籍 冊数	受入と 除籍の差 (冊)
1	東小学校	8,388	14	299	429	1.4	515,631	1,725	1,202	130	299
2	西小学校	8,348	9	208	371	1.8	286,948	1,380	773	234	137
3	南小学校	7,608	9	233	136	0.6	192,249	825	1,414	255	-119
4	北小学校	11,501	14	321	348	1.1	495,976	1,545	1,425	607	-259
5	林田小学校	10,307	15	302	603	2.0	900,000	2,980	1,493	146	457
6	鶴山小学校	10,430	19	542	318	0.6	399,177	736	1,255	118	200
7	弥生小学校	9,578	20	533	485	0.9	538,921	1,011	1,111	400	85
8	向陽小学校	8,009	14	294	382	1.3	448,770	1,526	1,175	58	324
9	院庄小学校	8,600	8	184	275	1.5	264,919	1,440	963	0	275
10	佐良山小学校	9,580	14	342	603	1.8	638,701	1,868	1,059	100	503
11	一宮小学校	9,871	20	528	181	0.3	522,640	990	2,888	0	181
12	高田小学校	6,733	7	158	193	1.2	118,003	747	611	3	190
13	清泉小学校	7,947	7	93	403	4.3	176,886	1,902	439	132	271
14	高倉小学校	7,419	8	124	138	1.1	136,133	1,098	986	0	138
15	高野小学校	12,542	17	465	424	0.9	468,960	1,009	1,106	3	421
16	成名小学校	7,943	8	114	101	0.9	92,737	813	918	0	101
17	河辺小学校	8,883	14	319	793	2.5	1,056,414	3,312	1,332	64	729
18	大崎小学校	9,000	9	199	136	0.7	200,000	1,005	1,471	0	136
19	広野小学校	5,684	7	86	239	2.8	296,444	3,447	1,240	251	-12
20	加茂小学校	3,328	8	215	450	2.1	288,573	1,342	641	25	425
21	阿波小学校	4,665	5	34	256	7.5	226,000	6,647	883	0	256
22	新野小学校	6,288	8	157	266	1.7	199,948	1,274	752	453	-187
23	広戸小学校	7,364	7	74	258	3.5	270,000	3,649	1,047	0	258
24	勝加茂小学校	7,091	7	135	257	1.9	290,000	2,148	1,128	35	222
25	喬松小学校	5,351	7	63	77	1.2	36,844	585	478	25	52
26	中正小学校	5,619	8	85	186	2.2	215,874	2,540	1,161	0	186
27	誠道小学校	4,544	7	98	164	1.7	231,886	2,366	1,414	21	143
28	秀実小学校	6,534	8	98	324	3.3	266,785	2,722	823	21	303
	合計	219,155	298	6,303	8,796	-	9,775,419	-	-	3,081	5,715
	28校の平均	7,827	10.6	225.1	314.1	1.9	349,122	1,880	1,114	110	204.1

学級数、児童数は「平成22年度津山市の教育」による

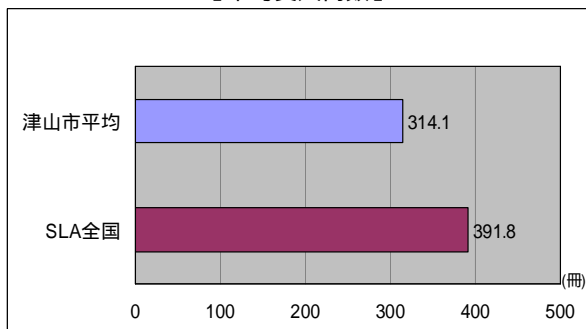
平成22年度の各校の受入冊数、図書購入費、除籍冊数を表にまとめました。

全28校の受入冊数を合計すると8,796冊。受入冊数の最も多い小学校は793冊で、最も少ない小学校は77冊。全受入冊数8,796冊を全児童数6,303名で除して求めた全児童一人あたりの受入冊数は1.4冊。児童一人あたりの受入冊数が最も多い小学校は7.5冊で、最も少ない小学校は0.3冊という状況でした。全28校の図書購入費を合計すると9,775,419円。図書購入費の最も多い小学校は1,056,414円で、最も少ない小学校は36,844円。全28校の除籍冊数を合計すると3,081冊。最も多い小学校は607冊で、最も少ない小学校は0冊という状況でした。

## 受入冊数

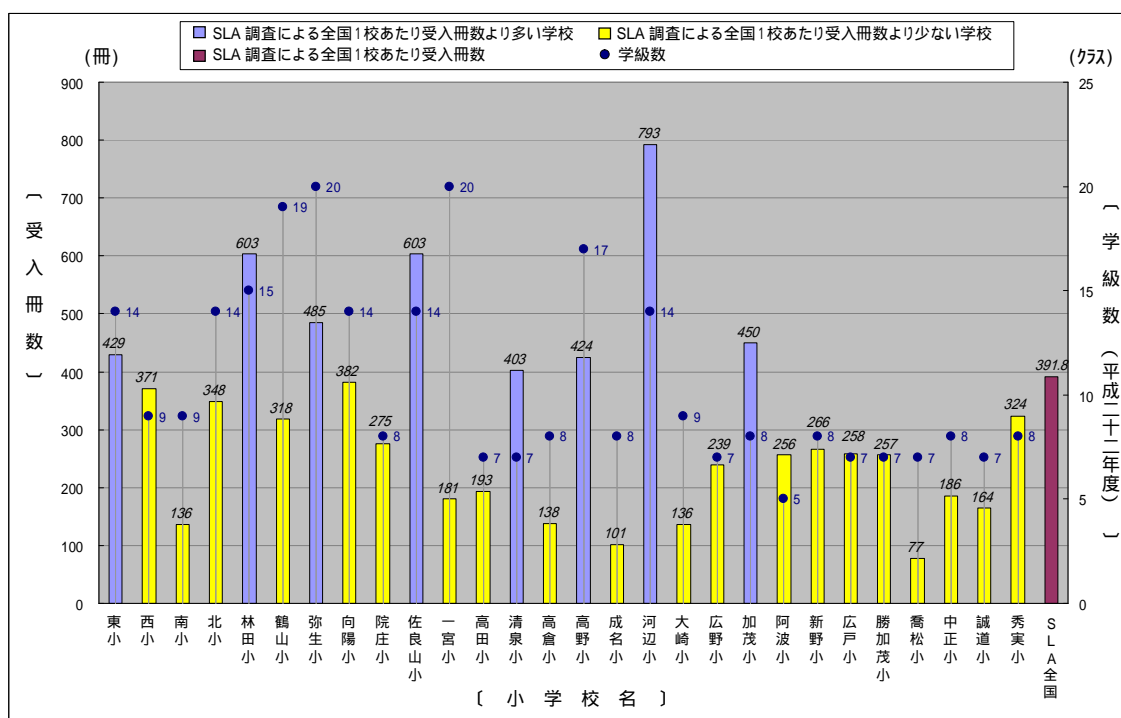
全 28 校の平成 22 年度の受入冊数を平均すると 314.1 冊となります。社団法人全国学校図書館協議会（全国 SLA）の「2010 年度学校図書館調査報告」による、全国の小学校の「1 校あたりの図書購入冊数」391.8 冊と比べると、全 28 校の受入冊数の平均冊数は 77.7 冊（約 2 割程度）少ない状況にあります。（ただし、今回の調査では「受入冊数」を調査したため、数値は必ずしも購入した図書の冊数とは限りません。）

【平均受入冊数】



受入冊数を学校別に見てみると、「2010 年度学校図書館調査報告」による全国の小学校の「1 校あたりの図書購入冊数」を上回っている小学校が 8 校ありました。

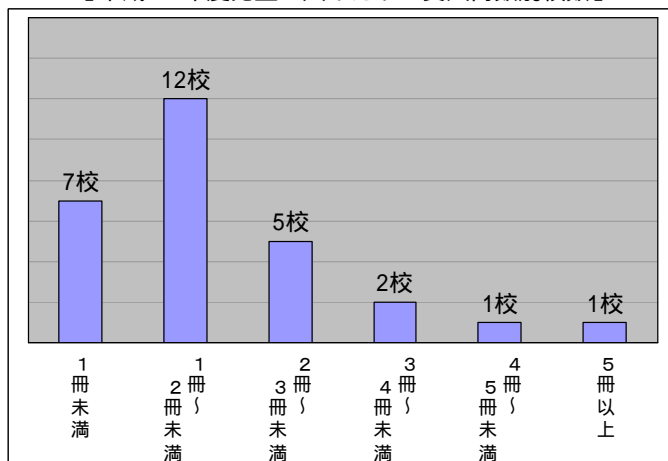
【平成 22 年度 各校の受入冊数と学級数】



各校の平成 22 年度の児童一人あたりの受入冊数については、

1 冊未満の小学校が 7 校、1 冊～2 冊未満の小学校が最も多く 12 校、2 冊～3 冊未満の小学校が 5 校、3 冊～4 冊未満の小学校が 2 校（広戸小、秀実小）、4 冊～5 冊未満の小学校が 1 校（清泉小）、5 冊以上の学校が 1 校（阿波小）という状況でした。

【平成 22 年度児童一人あたりの受入冊数別校数】



## 図書購入費

全28校の図書購入費を合計すると9,775,419円。最も多い小学校は1,056,414円（河辺小）で、最も少ない小学校は36,844円（喬松小）平均すると1校あたり349,122円でした。全28校の図書購入費を全児童数で除して求めた全児童一人あたりの図書購入費は1,551円。全28校の受入冊数の合計で除して求めた全校1冊あたりの購入単価は1,111円という状況でした。

〔図書購入費の状況〕

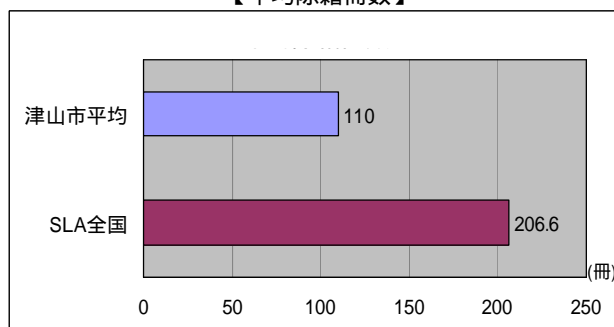
図書購入費合計	9,775,419円
全児童一人あたり図書購入費	1,551円
全28校1冊あたり単価	1,068円

児童一人あたりの図書購入費は、最も多い小学校では6,647円（阿波小）最も少ない小学校は585円（喬松小）。各校の児童一人あたり図書購入費を平均すると1,880円でした。1冊あたりの購入単価は、最も多い小学校では2,888円（一宮小）最も少ない小学校では439円（清泉小）。各校の1冊あたりの購入単価を平均すると1,114円でした。（ただし、今回の調査は「受入冊数」の調査であるため、必ずしも購入図書の冊数とは限りません。また、「資料購入費」の調査であるため、必ずしも図書の購入費とは限りません。）

## 除籍冊数

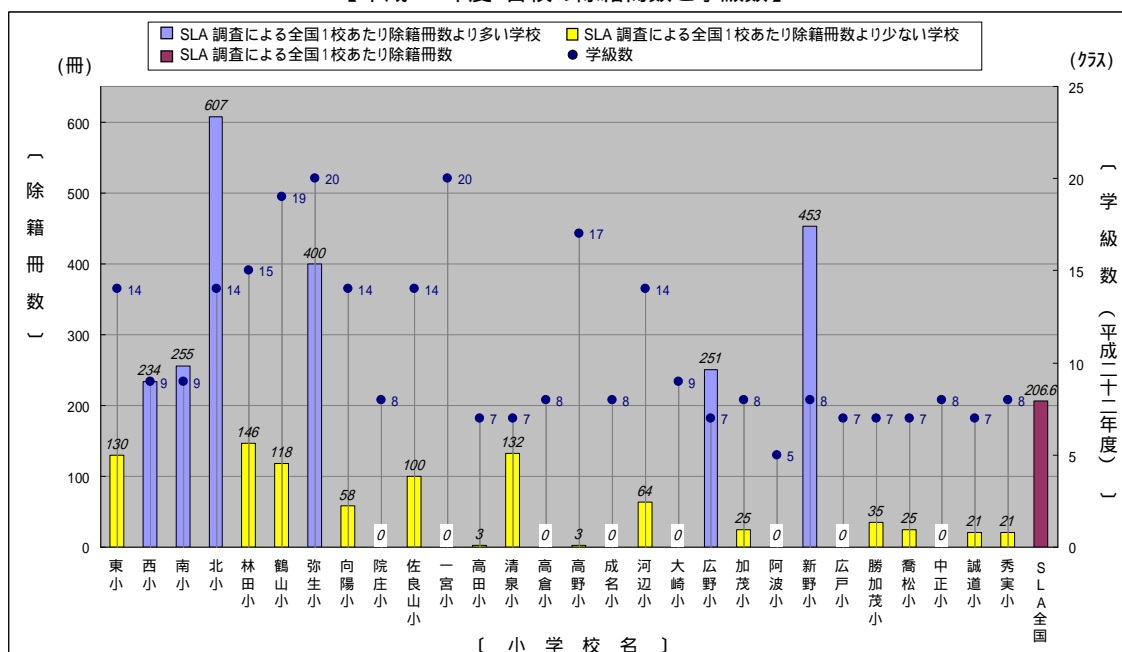
全28校の平成22年度の除籍冊数を平均すると110冊となります。社団法人全国学校図書館協議会（全国SLA）の「2010年度学校図書館調査報告」による、全国の小学校の「1校あたりの図書廃棄冊数」206.6冊と比べると、全28校の除籍冊数の平均冊数は96.6冊（約5割）少ないという状況にあります。（ただし、今回の調査では「除籍冊数」の調査であるため、数値は必ずしも廃棄した図書の冊数とは限りません。）

【平均除籍冊数】

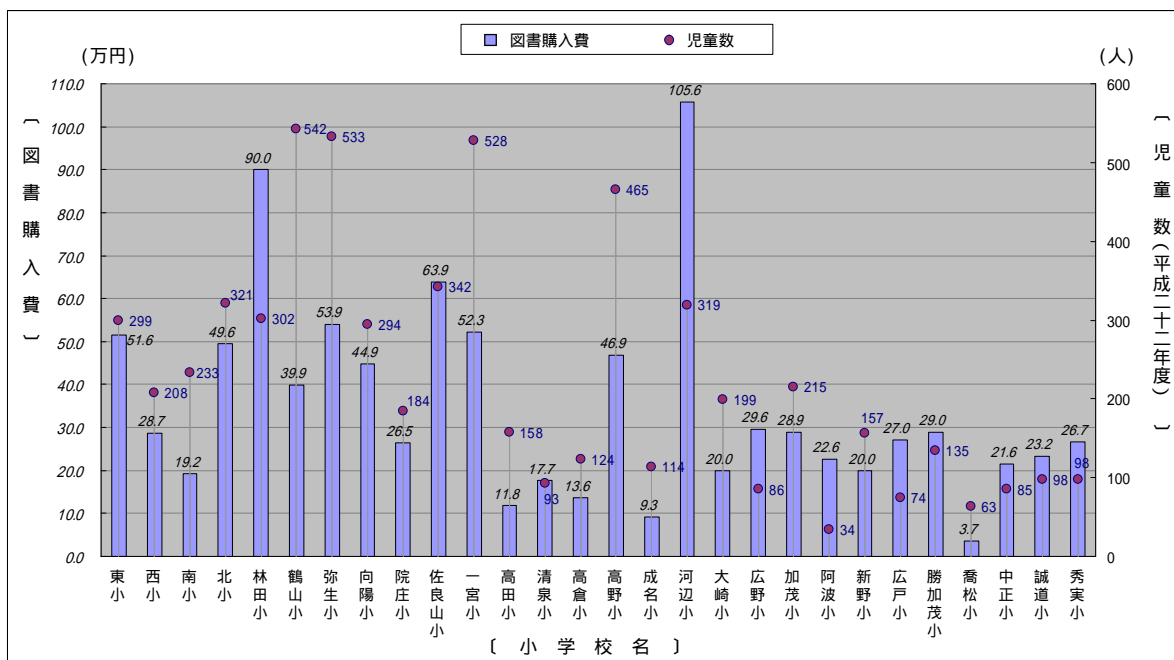


除籍冊数を学校別に見てみると、「2010年度学校図書館調査報告」による全国の小学校の「1校あたりの図書廃棄冊数」より多い小学校が6校、除籍0冊という小学校が8校ありました。

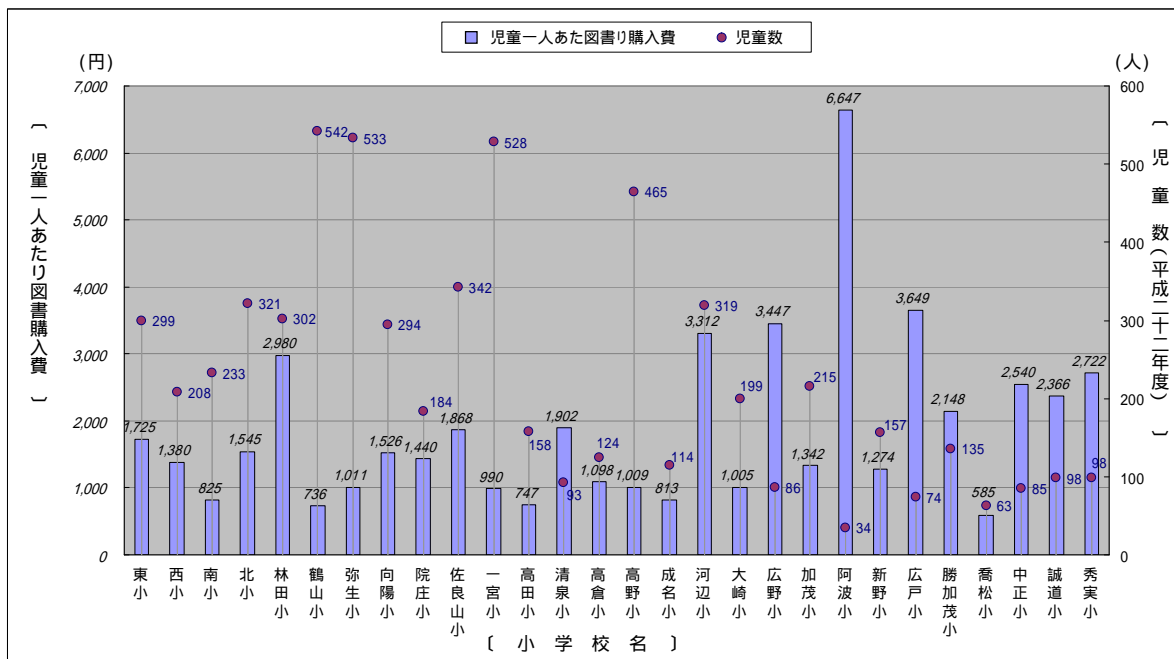
【平成22年度 各校の除籍冊数と学級数】



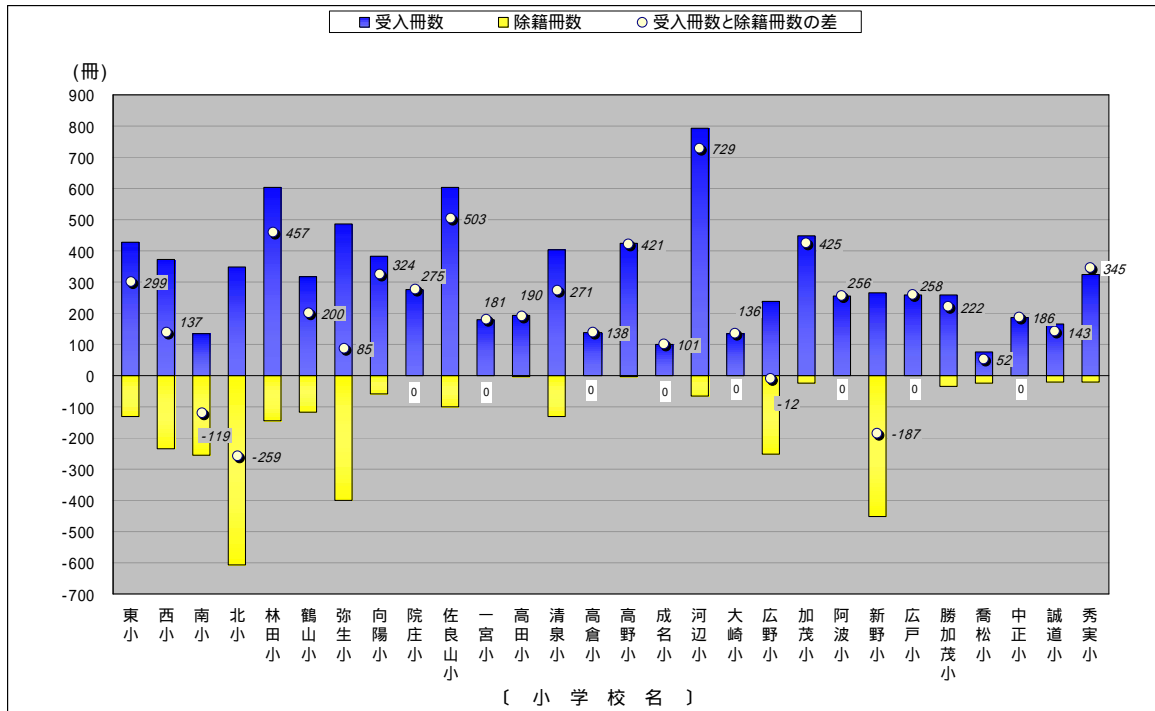
【平成 22 年度 各校の図書購入費と児童数】



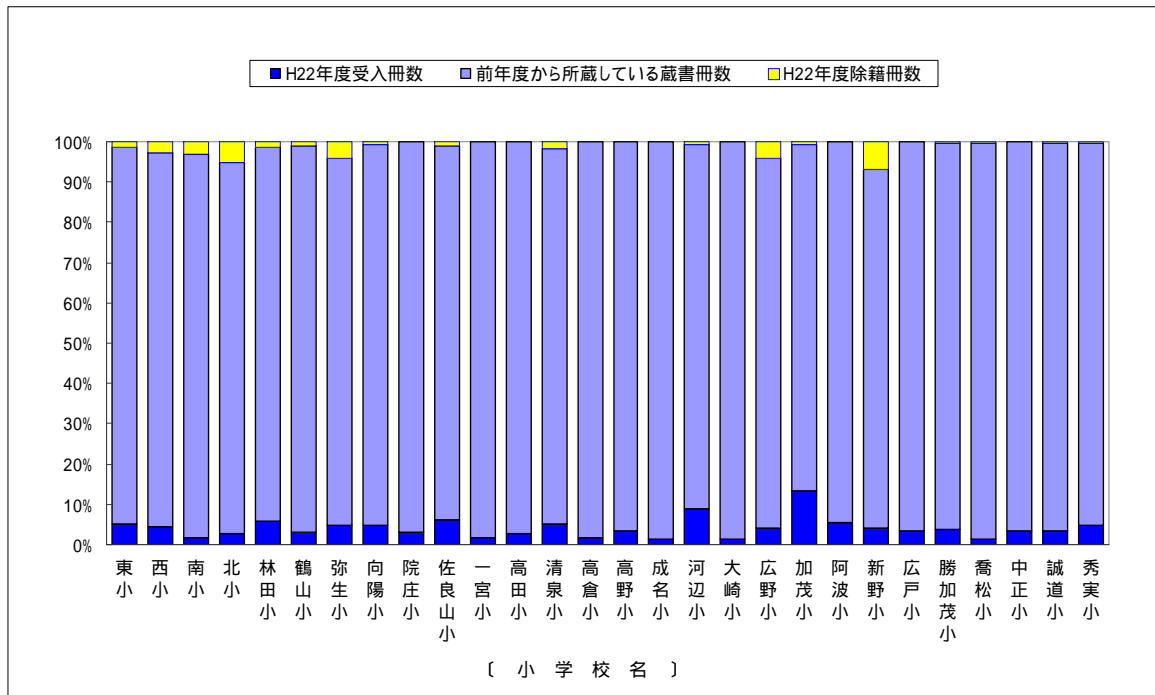
【平成 22 年度 各校の児童一人あたりの図書購入費と児童数】



【平成 22 年度 各校の受入冊数と除籍冊数】



【平成 22 年度 各校の蔵書の更新状況】



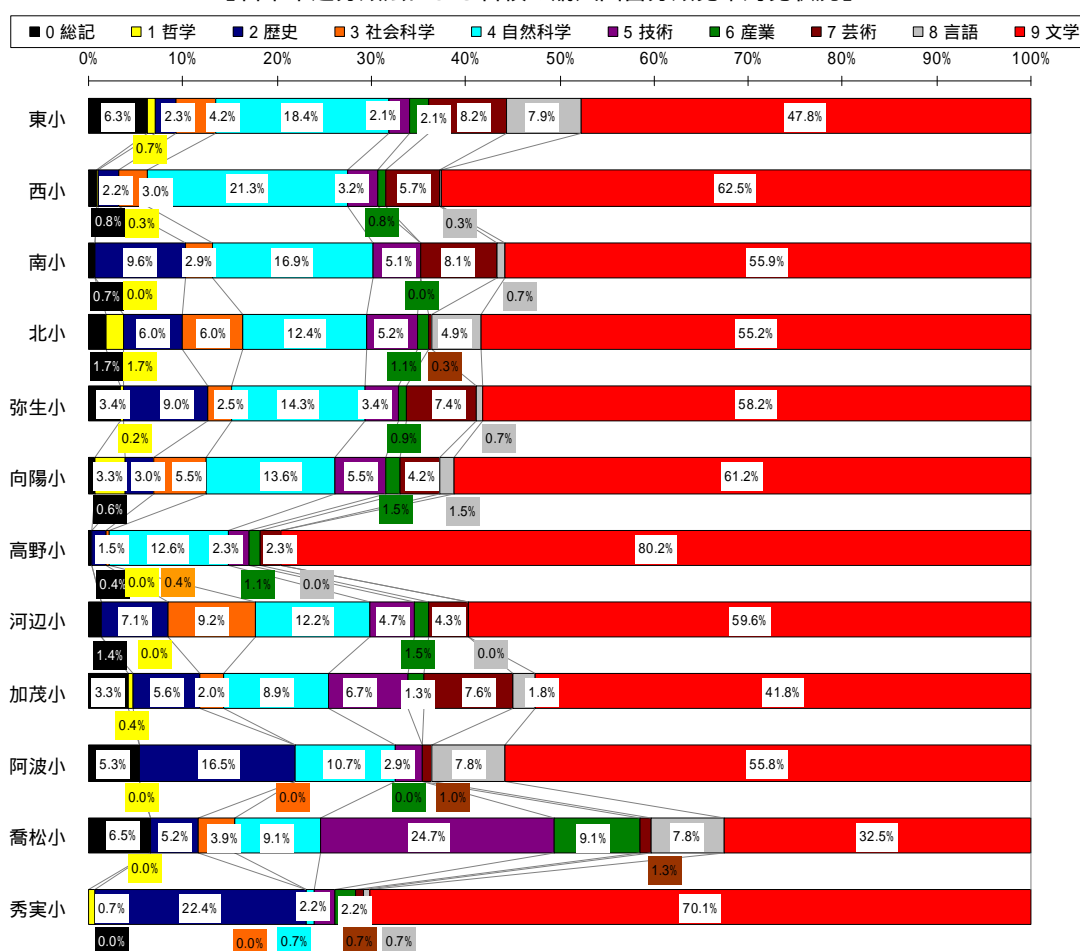
## 購入図書の分類別冊数

各校の平成 22 年度の購入図書の日本十進分類法( N D C )による分類比率については、12 校から回答を得られました。

〔平成 22 年度日本十進分類法による各校の購入図書分類比率状況〕

分類 (%) 学校名	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	合計
東小	6.3%	0.7%	2.3%	4.2%	18.4%	2.1%	2.1%	8.2%	7.9%	47.8%	100%
西小	0.8%	0.3%	2.2%	3.0%	21.3%	3.2%	0.8%	5.7%	0.3%	62.5%	100%
南小	0.7%	0.0%	9.6%	2.9%	16.9%	5.1%	0.0%	8.1%	0.7%	55.9%	100%
北小	1.7%	1.7%	6.0%	6.0%	12.4%	5.2%	1.1%	0.3%	4.9%	55.2%	100%
弥生小	3.4%	0.2%	9.0%	2.5%	14.3%	3.4%	0.9%	7.4%	0.7%	58.2%	100%
向陽小	0.6%	3.3%	3.0%	5.5%	13.6%	5.5%	1.5%	4.2%	1.5%	61.2%	100%
高野小	0.4%	0.0%	1.5%	0.4%	12.6%	2.3%	1.1%	2.3%	0.0%	80.2%	100%
河辺小	1.4%	0.0%	7.1%	9.2%	12.2%	4.7%	1.5%	4.3%	0.0%	59.6%	100%
加茂小	3.3%	0.4%	5.6%	2.0%	8.9%	6.7%	1.3%	7.6%	1.8%	41.8%	100%
阿波小	5.3%	0.0%	16.5%	0.0%	10.7%	2.9%	0.0%	1.0%	7.8%	55.8%	100%
喬松小	6.5%	0.0%	5.2%	3.9%	9.1%	24.7%	9.1%	1.3%	7.8%	32.5%	100%
秀実小	0.0%	0.7%	22.4%	0.0%	0.7%	2.2%	2.2%	0.7%	0.7%	70.1%	100%

【日本十進分類法による各校の購入図書分類比率対比状況】



購入図書の日本十進分類法( N D C )による分類比率をしてみると、12 校中9 校が9 類(文学)の割合が 50%以上と圧倒的に高く、9 類(文学)が 50%以下の小学校は 3 校でした。

### 購入および除籍資料の選書基準

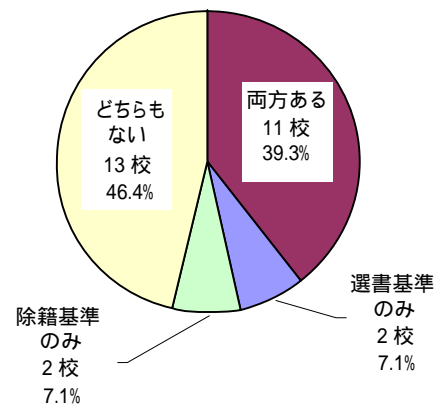
購入および除籍の基準の有無については、選書基準と除籍基準の両方ともに定めている小学校は11校（39.3%）でした。

反対に、どちらも定めていない小学校は13校（46.4%）でした。ただし、このうちの9校においては、図書主任などの図書担当教諭と相談して選書している、という回答が得られました。

選書基準は定めているものの除籍基準は定めていない小学校は2校（7.1%）、除籍基準は定めているものの選書基準は定めていない小学校が2校（7.1%）でした。

〔購入・除籍資料の基準設置校数の状況〕

両方定めている	11校	39.3%
選書基準のみ	2校	7.1%
除籍基準のみ	2校	7.1%
どちらも定めていない	13校	46.4%



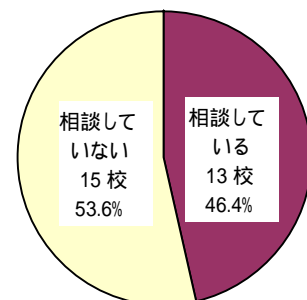
【購入・除籍基準設置の校数比率】

### 教諭の選書への参画

図書購入における選書の際の教諭等の参画については、教諭等に相談して選書している小学校は13校（46.4%）、相談していない小学校が15校（53.6%）という状況でした。

〔選書への参画状況〕

教諭等に相談している	13校	46.4%
教諭等に相談していない	15校	53.6%



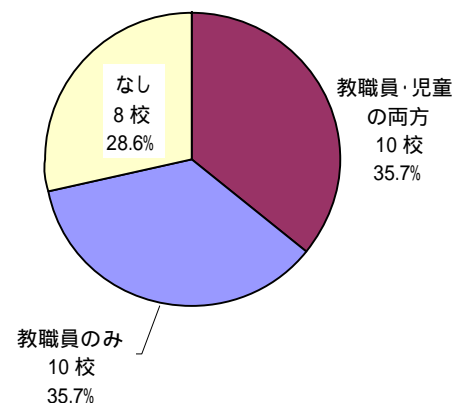
【選書参画の校数比率】

### 教職員や児童のリクエスト

図書購入に関する教職員や児童のリクエストの受け付けについては、教職員・児童の両方ともに受け付けている小学校は10校（35.7%）、教職員からのみ受け付けている小学校は10校（35.7%）、リクエストを受け付けていない小学校が8校（28.6%）という状況でした。

〔リクエストの受け付け状況〕

教職員・児童ともに受け付けている	10校	35.7%
教職員からのみ受け付けている	10校	35.7%
リクエストは受け付けていない	8校	28.6%



【リクエストの受け付けの校数比率】

#### (4) 図書以外の図書館資料

##### 新聞

学校図書館で新聞を購読しているという回答の小学校は 10 校 (35.7%)、購読していないという回答の小学校は 18 校 (64.3%) でした。

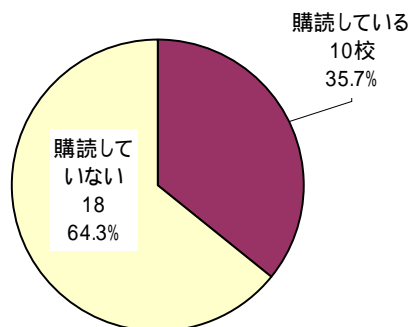
文部科学省による「平成 22 年度『学校図書館の現状に関する調査』結果」で公表された全国の学校図書館に新聞を配備している学校の割合 16.9%より 18.8 ポイント上回っています。

購読紙数については、1 紙が 9 校、2 紙購読している小学校が 1 校ありました。平均すると 1.1 紙で、「2010 年度学校図書館調査報告」による 1.4 紙よりやや下回っています。

購読紙は、「朝日小学生新聞」「毎日小学生新聞」「さん太タイムス(月曜刊)」の 3 紙でした。

〔購読紙タイトル別校数状況〕

朝日小学生新聞	4 校
毎日小学生新聞	4 校
さん太タイムス(月曜刊)	3 校



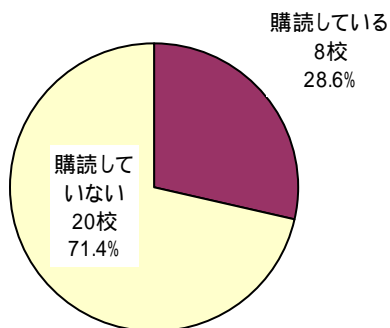
【新聞購読の校数比率】

##### 雑誌

学校図書館で定期的に雑誌を購読しているという回答の小学校は 8 校 (28.6%)、購読していないという回答の小学校は 20 校 (71.4%) でした。

「2010 年度学校図書館調査報告」による全国の雑誌を購読している小学校の割合 52.9%と比べて 24.3 ポイント下回っています。

購読誌数については、1 誌が 5 校、2 誌が 3 校でした。平均すると 1.4 誌で、2010 年度学校図書館調査報告」による全国平均の 2.3 誌を下回っています。



【雑誌購読の校数比率】



購読している雑誌のジャンルについては、雑誌を購読しているすべての小学校において、調べ学習に活用できる雑誌を購読しています。

〔購読雑誌タイトル別校数状況〕

月刊 News がわかる	6校
月刊ポプラディア	5校

また、定期的な購読はしていないものの、寄贈等によりバックナンバーの一部を所蔵している小学校もありました。それらの雑誌のタイトルは、「週刊かがくるアドベンチャー」「月刊ちゃぐりん」「月刊たくさんのふしぎ」「月刊岡山県北タウン情報誌 JAKEN」「月刊 piano」等がありました。

**その他の資料**

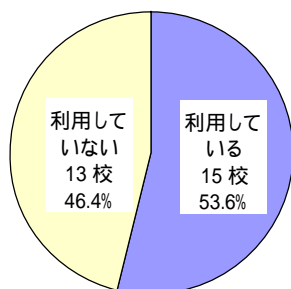
新聞・雑誌の他、パンフレット資料として「JA」「郷土」「平和」「戦争」の資料を所蔵している学校がありました。

その他、ビデオ、DVDを所蔵している学校もありました。

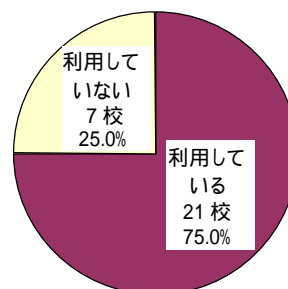
〔その他資料別校数状況〕

(パンフレット資料)JA	2校
(パンフレット資料)郷土	1校
(パンフレット資料)平和	1校
(パンフレット資料)戦争	1校
ビデオ	1校
DVD	1校

(5) 公共図書館の団体貸出・配本所貸出 ( 6 ) の活用状況



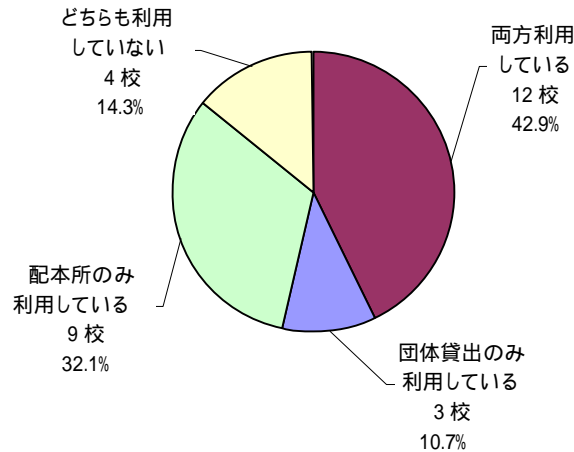
【団体貸出】



【配本所貸出】

〔公共図書館の団体貸出・配本所貸出の校数別活用状況〕

		団体貸出	配本所貸出
利用している	校数	15校	21校
		両方とも利用している：12校	
		団体のみ利用している：3校	配本所のみ利用している：9校
	用途 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・先生のため資料(授業)</li> <li>・調べ学習</li> <li>・学年ごとに借りている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級文庫</li> <li>・読み聞かせ</li> <li>・総合的な学習(授業)</li> <li>・朝読書</li> <li>・購入選書の参考にする</li> <li>・ミッケ、ウォーリーを複数</li> </ul>
保管方法 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級で借りたものは学級管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外持ち出し禁止(担任管理)</li> <li>・図書館内閲覧(禁帯出)</li> <li>・担任管理</li> <li>・持ち帰り可能(担任管理)</li> <li>・持ち帰り可能(図書館管理)</li> <li>・学級は禁帯出・図書館は可</li> </ul>	
利用していない	校数	13校	7校
		どちらも利用していない：4校	
		団体は利用していない：9校	配本所は利用していない：3校
	理由 (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自校の資料で足りているから</li> <li>・個人的に借りてくるから</li> <li>・期間が短いから</li> <li>・BM( 7)が来ているから</li> <li>・配本の方を進められたから</li> <li>・配本の方を使っているから (同時に利用すると資料が混在してわからなくなると困る)</li> <li>・それほど依頼がないから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級文庫には図書館の本を置いているから</li> <li>・以前資料を紛失して以来利用していない</li> </ul>
(どちらも利用していない)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理面で不安があるから</li> <li>・赴任したばかりで利用方法がわからないから</li> <li>・今はまだそこまで手が回らないから</li> <li>・(教諭等からの)要望がないから</li> <li>・先生が必要な資料は先生方個人で用意されているから</li> <li>・続けて利用していると資料が重複して魅力が薄れるから</li> </ul>	



【団体貸出・配本所貸出】

市立図書館の団体貸出、配本所貸出サービスを両サービスとも利用している小学校は12校（42.9%）、団体貸出のみを利用している小学校は3校（10.7%）、配本所貸出のみを利用している小学校は9校（32.1%）という回答でした。いずれかのサービスを利用している小学校は24校であり、全体の約9割にのぼる小学校が、市立図書館の貸出サービスを活用しています。

一方、全体の約1割にあたる4校（14.3%）は、いずれのサービスも利用していません。サービスを利用していない理由としては、そもそも需要がない 利用方法が不明瞭 管理面での不安 着任したばかりでそこまでの余裕がないなどの回答が得られました。

市立図書館の貸出サービスを活用している学校の用途を見ると、団体貸出は主に読み聞かせに、配本所貸出は学級文庫で担任管理の下に利用しているケースが多く、管理方法としては、学級管理のものは校外持ち出しをしていないケースが多いようです。

配本所貸出を利用しているものの団体貸出を利用していない理由としては、自動車文庫等も含めた他の貸出サービスを活用していることや、団体貸出の貸出期間が短いことがあげられています。

- 
- 6 団体貸出・配本所貸出：津山市立図書館における学校等の団体利用者のための貸出サービス。団体貸出：利用対象=市内の小・中・高等学校、児童クラブ、保育園・幼稚園等，貸出冊数=100冊以内(紙芝居は40冊)，貸出期間=1か月。配本所貸出：利用対象=市内の小・中・高等学校、公民館、保育園・幼稚園等，貸出冊数=500冊以内，貸出期間=4か月。
- 7 B M(自動車文庫)：津山市立図書館による自動車文庫「ぶっくまる」。旧町村立の全小学校や老人施設、道の駅など市内35箇所(平成23年4月1日現在)を毎月定期巡回して図書館サービスを実施している。積載図書は約4,200冊。

## 2. 学校図書館所蔵資料利用状況調査

### (1) 貸出・返却処理方法

蔵書管理にコンピューター・システム（スタンドアローン・スタイル）を導入している8校においては、そのシステムを使用して貸出・返却処理を実施しています。

コンピューター・システム（スタンドアローン・スタイル）を導入していない20校においては、貸出・返却手続に、手書きの読書カードに記入する方法を採用しています。20校のうち4校では、台本板も活用していました。

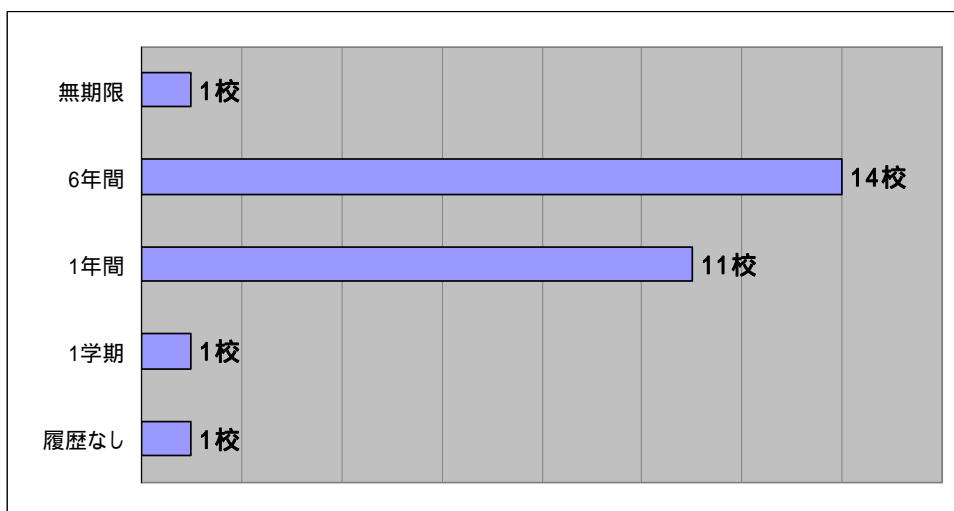
〔コンピューター・システム導入状況〕

コンピューター・システム導入校(予定も含む)	8校	東小、鶴山小、弥生小、佐良山小、一宮小、高野小、河辺小、大崎小	
コンピューター・システム未導入校の運用内訳	20校	読書カードのみ	15校
		読書カードと台本板を併用	4校
		1年生のみ読書ノート (読書カードは2年から使用)	1校

### (2) 読書履歴管理状況

読書履歴の管理状況については、保管期間6年間（2年生から読書カードを使用する1校も含む）が14校、保管期間1年間で11校、1学期保管の学校が1校、無期限で保管している学校が1校（独自の図書館管理システム導入校）、履歴は残らない学校が1校（独自の図書館管理システム導入校）という状況でした。

【校数別読書履歴管理状況】



(3) 年間貸出冊数 (平成 22 年度)

[平成 22 年度 年間貸出冊数]

学校名	児童数 (H22)	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計	1 人当 貸出数
東小学校	299	3,004	3,789	4,744	5,180	2,982	1,594	21,293	71.2
西小学校	208	2,468	3,354	6,660	3,022	1,200	697	17,401	83.7
北小学校	321	2,463	3,884	2,112	1,891	1,511	857	12,718	39.6
林田小学校	302	2,424	3,244	2,588	2,751	1,799	1,016	13,822	45.8
鶴山小学校	542	4,516	6,704	4,087	4,379	3,305	1,716	24,707	45.6
弥生小学校	533	6,561	5,254	8,273	9,448	5,018	3,459	38,013	71.3
向陽小学校	294	920	863	1,094	1,714	568	911	6,070	20.6
一宮小学校	528	1,693	1,826	3,316	1,754	1,321	747	10,657	20.2
清泉小学校	93	947	585	996	1,711	1,269	862	6,370	68.5
高野小学校	465	4,031	5,457	6,666	7,323	3,913	2,089	29,479	63.4
河辺小学校	319	3,865	4,343	6,177	3,202	2,291	1,834	21,712	68.1
広野小学校	86	1,265	909	733	1,326	824	333	5,390	62.7
阿波小学校	34	718	769	578	709	1,006	1,232	5,012	147.4
新野小学校	157	1,066	805	711	1,491	729	444	5,246	33.4
勝加茂小学校	135	583	745	1,213	551	1,021	416	4,529	33.5
喬松小学校	63	186	239	252	146	181	130	1,134	18.0
中正小学校	85	447	828	672	176	139	329	2,591	30.5
秀実小学校	98	234	293	338	244	245	250	1,604	16.4
合計	4,562	37,391	43,891	51,210	47,018	29,322	18,916	227,748	-
			81,282		98,228		48,238		
18 校の平均	-	2,077	2,438	2,845	2,612	1,629	1,051	12,653	52.2

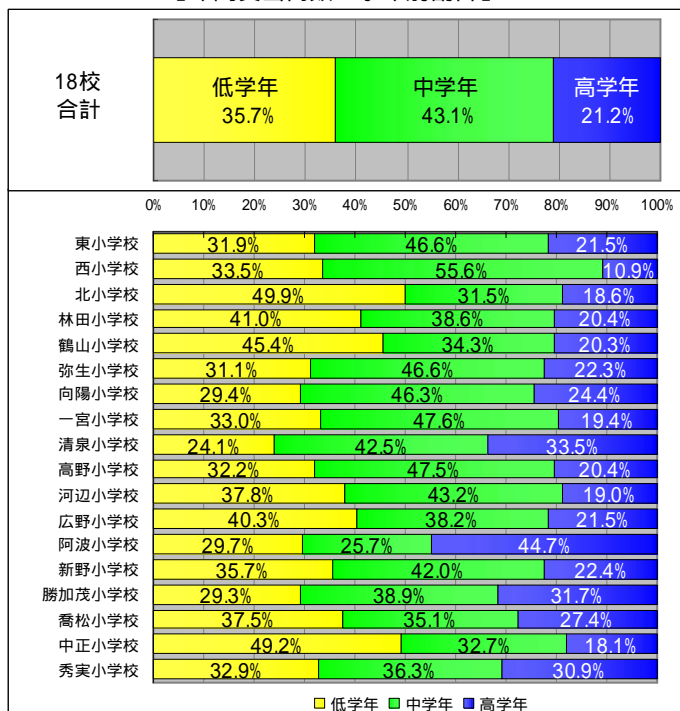
児童数は「平成 22 年度津山市の教育」による

平成 22 年度の学年別の年間貸出冊数については、18 校から回答を得られました。18 校の貸出冊数の合計は 227,748 冊で、これを 18 校の児童数の合計 4,562 名で除して求めた児童一人あたりの年間貸出冊数は 49.9 冊でした。

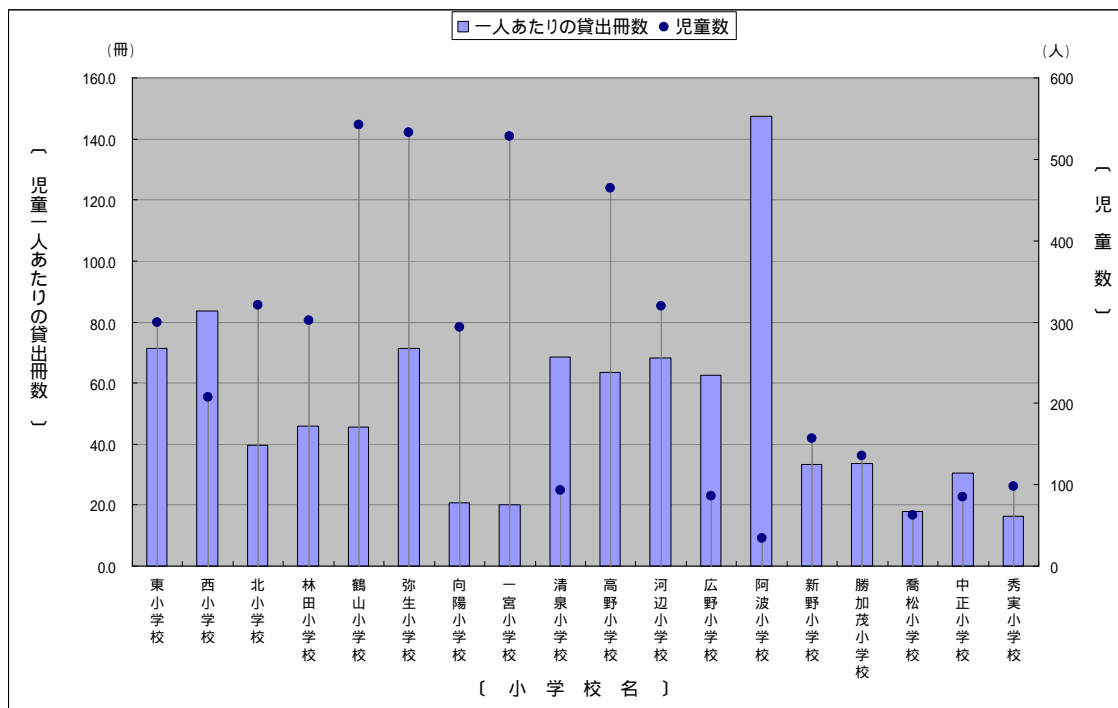
【年間貸出冊数の学年別割合】

貸出冊数の学年別の割合について見てみると、18 校の合計では、低学年(1～2年)が 81,282 冊(35.7%)、中学年(3～4年)が 98,228 冊(43.1%)、高学年(5～6年)が 48,238 冊(21.2%)という状況でした。全体に占める中学年の割合が高く、高学年の割合の約 2 倍となっています。

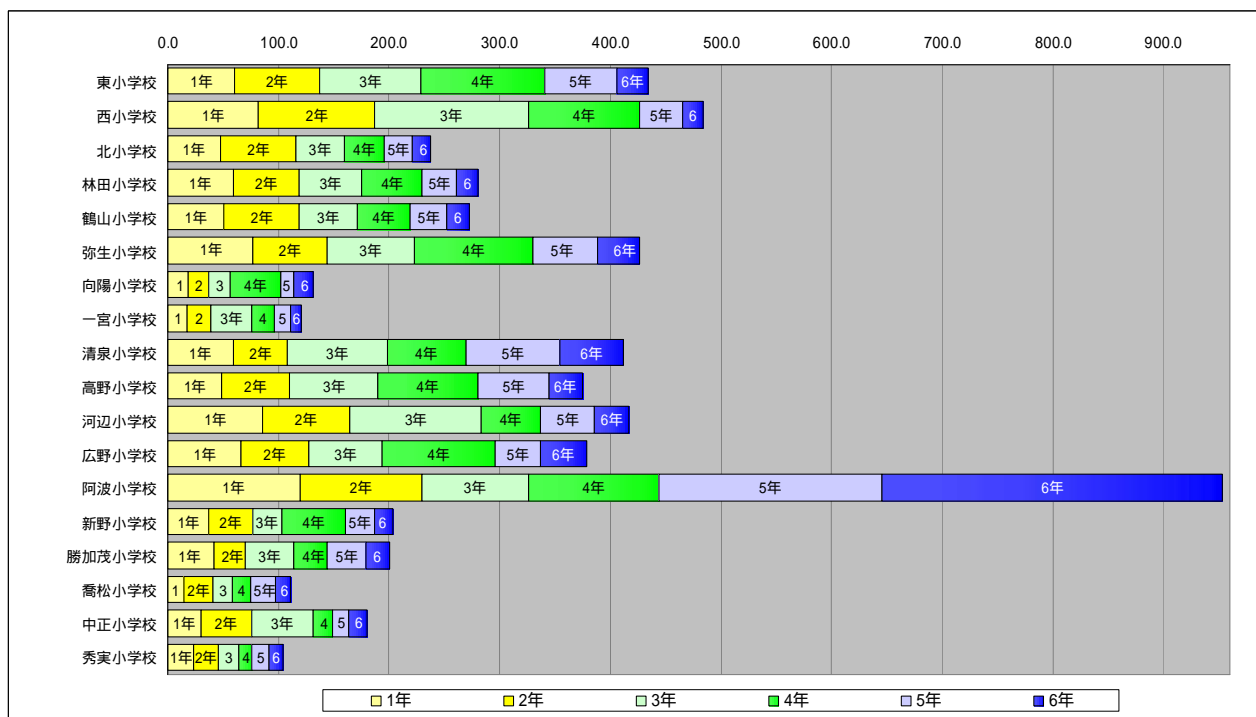
各校の状況を見てみると、どの学年もほぼ同じ割合の小学校や、高学年の割合が高い小学校も見受けられます。



【平成 22 年度 児童一人あたりの貸出冊数と児童数】



【平成 22 年度 学年別児童一人あたり貸出冊数】



各校の学年別児童一人あたりの年間貸出冊数を見てみると、校内に占める割合が同様でも、その中身である冊数については差異が見られます。各学年における児童一人あたりの貸出冊数を学校間で比べると、最も多い小学校と最も少ない小学校との差は、どの学年においても約 100 冊かそれ以上の冊数の開きが見られました。

#### (4) 展示等

現地調査の時節柄、課題図書展示が多く見られました。全 28 校において季節や行事、学習活動に関連づけた展示が実施されていました。

〔件数別展示実施状況〕

課題図書	11 件
いじめについて考える	5 件
新刊図書	4 件
梅雨・6月	4 件
*その他	8 件

\*その他

防災、田植え、津山っ子に贈る 100 冊、犬、岡山空襲、世界の物語、歯の本、おすすめの本(こんな本を読みました)

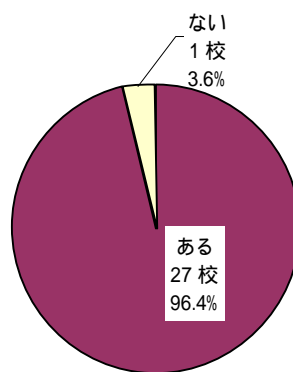
#### (5) 児童からのレファレンス ( 8 )

児童からのレファレンスについて、受けることが「ある」という回答が 27 校 (96.4%)、レファレンスを受けることが「ない」という回答が 1 校 (3.6%) という状況でした。

ほぼすべての小学校において、学校司書または図書整理員が児童からのレファレンスに対応しているという状況がうかがえます。

〔校数別レファレンス実施状況〕

レファレンスがある	27 校	96.4%
レファレンスがない	1 校	3.6%

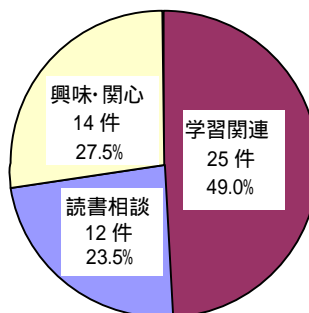


【レファレンス実施比率】

児童から受けるレファレンスの主題を「授業・学習関連」、「読書相談」、「興味・関心」の領域に分け、領域別に回答を見てみると、「授業・学習関連」が半数を占めています。「読書相談」と「興味・関心」については、ほぼ同数の回答が得られました(複数回答)。

〔児童からのレファレンス内訳〕

授業・学習関連	25 件	49.0%
読書相談	12 件	23.5%
興味・関心	14 件	27.5%



【児童からのレファレンスの内訳比率】

8 レファレンス：利用者が必要とする資料や情報を入手しやすくする図書館の活動。一般的に、利用者の調査・資料探索を支援する行為と認識されている。学校図書館におけるレファレンスは、児童生徒の質問に対して回答を与えることだけが目的ではなく、課題を解決するための資料や情報を探す方法を指導することによって、児童生徒に自主的な学習方法を身につけさせる機会にもなる。

〔児童からのレファレンスのテーマ〕

<p>「授業・学習関連」</p>	<p>授業に関する疑問・授業関連、単元に関する資料          [ 2年 ] 平和          [ 3年 ] 手話、生き物のつくり、昔の道具、年中行事          [ 4年 ] 版画、昔の暮らし、県別調べ、展示、理科、外国と日本の文化の違い、職業調べ、水、環境、ゴミ問題、国際交流（ベトナム・マレーシア・インドネシア・ラオス）、阪神淡路大震災、火山（新燃岳噴火）          [ 5年 ] 地理、世界遺産、環境問題、身の回りの生き物、気象、雲の名前、図工、ことわざ、方言、四字熟語、落語          [ 6年 ] 歴史、世界遺産、平和学習、修学旅行、火山、地震、ことば          《社会》歴史、義経、外国、戦争、昔の暮らし、地図記号、明るい社会          《理科》アメンボが載っている本、虫・花の名前、めだか          《図工》紙粘土、版画の下絵、木の枝ぶり          《学校行事》歯磨き（歯磨き週間）、朝ごはん（食育）          《家庭科》          神話、伝記、歴史、歴史上の人物、バッキンガム宮殿の面積、戦争、昔の暮らし、食べ物の歴史、平和、自由研究、ゴミ、環境、地球環境、リサイクル、生き物、植物、大豆、米、動物、動物の食事、野菜、水、日本の産業、地図記号、落語、米を干す棒の名前</p>
<p>「読書相談」</p>	<p>シリーズ（あさってシリーズ 等）、好きな作家の作品（シェイクスピアの作品 等）、おもしろい本、おすすめの本</p>
<p>「興味・関心」</p>	<p>[ 1類 ]          [ 2類 ]          [ 3類 ]          [ 4類 ] 元素記号、植物、花、衛星の名前、UFO、恐竜、ウミウシ、めだか、ハムスター          [ 5類 ] ツリーハウスの作り方、料理          [ 6類 ] 魚のえさ、昆虫の飼い方、カブトムシの飼い方、爬(は)虫類の飼い方、ヤモリ・イモリの飼い方、動物の飼い方、生き物の飼い方          [ 7類 ] 折り紙、スポーツ、スライム、動物の写真、工作、クイズ          [ 8類 ] 古典、ことわざの意味</p>



## (6) 授業における学校図書館の利活用状況

授業において学校図書館を活用している教科としては、「社会」が最も多く 24 校 (85.7%)、次いで「理科」が 23 校 (82.1%) から活用しているという回答が得られました。「社会」、「理科」は学校図書館を活用する科目として定着しているようです。続いて「国語」という回答が 14 校 (50.0%)、「総合」が 11 校 (39.3%) から活用しているという回答が得られました。その他の回答として、修学旅行の事前学習や、図工、家庭科の授業での学校図書館の活用があげられています。

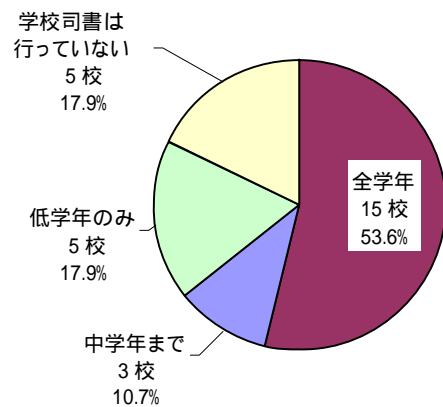
図書の時間では、低学年においてはほぼ固定的に学校図書館を活用しているものの、学年が上がるにつれて、定期的に活用することが難しくなっていく状況がうかがえます。

〔各校の授業における学校図書館の活用状況〕

学校名		図書館を授業で使用する教科					「図書」の時間における活用状況					
		国語	社会	理科	総合	その他	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	東小学校											
2	西小学校					(環境)						
3	南小学校											
4	北小学校					家庭科						
5	林田小学校					図工						
6	鶴山小学校											
7	弥生小学校											
8	向陽小学校											
9	院庄小学校											
10	佐良山小学校					(環境)						
11	一宮小学校											
12	高田小学校					図工						
13	清泉小学校					図工						
14	高倉小学校					図工						
15	高野小学校					英語						
16	成名小学校						時間を取っていない					
17	河辺小学校											
18	大崎小学校											
19	広野小学校					修学旅行						
20	加茂小学校					(環境)						
21	阿波小学校					修学旅行	時間を取っていない					
22	新野小学校					(平和)						
23	広戸小学校					音楽、図工						
24	勝加茂小学											
25	喬松小学校											
26	中正小学校					図工						
27	誠道小学校											
28	秀実小学校					修学旅行						
		14校 50.0%	24校 85.7%	23校 82.1%	11校 39.3%		図書の時間における活用状況 :定期的に活用, :不定期に活用					

(7) 学校司書による学校図書館オリエンテーションの実施状況

学校司書または図書整理員による学校図書館のオリエンテーション(利用指導)の実施状況については、全学年に実施している小学校が15校(53.6%)、中学年(3~4年)まで実施している小学校が3校(10.7%)、低学年(1~2年)のみに実施している小学校が5校(17.9%)という回答でした。学校司書または図書整理員による学校図書館のオリエンテーションが行われていないという回答は5校(17.9%)でした。



〔オリエンテーションの校数別実施状況〕

全学年行っている	15校	53.6%
中学年まで行っている	3校	10.7%
低学年のみ行っている	5校	17.9%
学校司書は行っていない	5校	17.9%

【オリエンテーション実施比率】

学校司書または図書整理員がオリエンテーションを行っていない学校では、担任を中心として学校図書館の利用指導を実施している様子が見られました。

- ・担任が実施している・・・3校
- ・破損資料を修理することを伝達する・・・1校
- ・2年生が1年生に教えることがある・・・1校

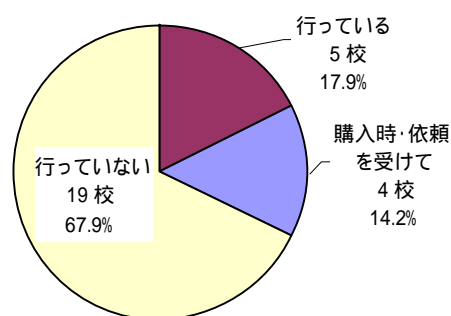
〔各校のオリエンテーションの指導内容などの例〕

1年	2年	3年	4年	5年	6年
		資料の使い方	百科事典の使い方	プリントを配布	
図書館の使い方	本のしくみと並び方	図鑑の使い方	目次、索引について	分類について	調べ学習に役立つ本
図書室の約束・本の借り方	図書室のきまり	分類について (Part1)	分類について (Part2)	調べ学習のための図書館利用	参考図書の紹介・使い方など
					分類、調べ物資料の使い方
図書館の使い方、マナー					百科事典の使い方
図書館の使い方、マナー					
		図書クイズを活用			
貸出返却の仕方、貸出カードの書き方				分類	
調べ方、NDC					

## (8) 授業支援・学習支援サービスの実施状況

### 参考資料の推薦

学校司書または図書整理員による教諭への参考資料の推薦の実施状況については、「行っている」という回答が5校(17.9%)、購入時の案内や教諭からの依頼を受けて実施するという回答が4校(14.2%)、19校(67.9%)からは「行っていない」という回答が得られました。



〔教諭に対する参考資料の推薦実施状況〕

行っている	5校	17.9%
購入時・依頼を受けて実施	4校	14.2%
行っていない	19校	67.9%

【参考資料の推薦実施比率】

参考資料の推薦を行っている小学校では、次のような事例が見られました。

#### 〔事例〕

- ・ 図書の時間に参考資料を紹介している。
- ・ 学級文庫を活用したり、お知らせや展示をしたりしている。
- ・ 特に社会科や理科で活用できそうな資料について、教諭に選定の相談をしながら資料を紹介している。
- ・ 授業や調べ学習で活用できそうな資料があるときや、調べ学習を実施する時期が分かっているときに資料を紹介している。
- ・ 調べ学習に活用できそうな新刊を紹介している。

学校司書または図書整理員が、参考資料の推薦を行っていない理由としては、次の点があげられました。

#### 〔参考資料の推薦を行っていない理由〕 複数回答

教諭との時間が合わない	4件
教諭と話し合う時間がない	3件
時間的な余裕がない	2件
急に図書館に来られるので対応できない	1件
手続きが煩雑(起案して職員会議での承認が必要)	1件
雇用状況の相違により自分からは動きにくい	1件

勤務する時間帯が教諭と異なり時間が取れない、教諭と話し合う時間が取れないという時間的な制約が理由として多くあげられています。

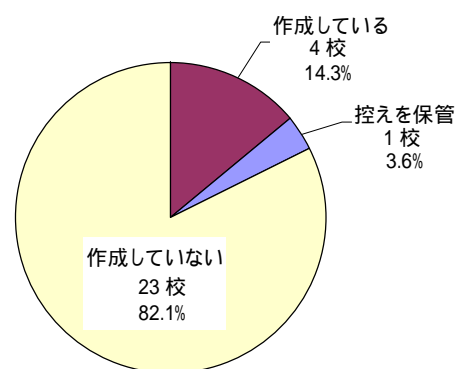
### 調べ学習資料リストの作成・提供

学校司書または図書整理員が、調べ学習に関連した資料リストを作成・提供している状況については、「作成している」という回答が4校（14.3%）、「提供はしていないが使用した資料のリストを控えとして保管している」という回答が1校（3.6%）、23校（82.1%）が「作成していない」という回答でした。

多くの小学校で調べ学習に関連した資料リストの作成は行われていないという状況でした。

〔校数別調べ学習資料リストの作成状況〕

作成している	4校	14.3%
使用資料の控えを保管している	1校	3.6%
作成していない	23校	82.1%



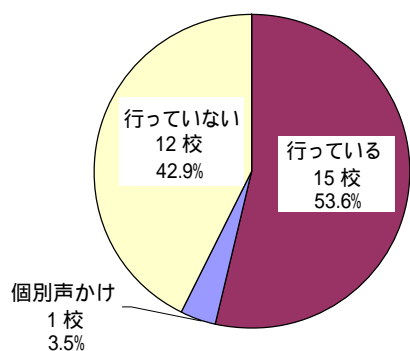
〔調べ学習資料リスト作成の校数別比率〕

### 授業内容に沿った資料の紹介

学校司書または図書整理員が、授業の内容に沿った資料の紹介を実施している状況については、「行っている」という回答が15校（53.6%）、「個別に声をかけている」という回答が1校（3.5%）、12校（42.9%）が「行っていない」という回答でした。

〔授業に沿った資料の紹介状況〕

行っている	15校	53.6%
個別に声をかけている	1校	3.5%
行っていない	12校	42.9%



〔資料紹介実施の校数別比率〕

授業内容に沿った資料紹介の実践としては、次のような事例が見られました。

〔事例〕

- ・単元に沿ったブックトーク（9）を行っている。
- ・調べ学習の内容に沿ったブックトークを行っている。
- ・行事などのテーマで資料を紹介している。
- ・季節や授業に関する資料を紹介している。
- ・調べ学習の前に関連する資料を紹介している。
- ・修学旅行前に関係資料を紹介している。
- ・授業で資料を用意したときに紹介している。
- ・1年生の教科書に関連して資料を紹介している。
- ・学習中は関連するテーマ展示を行っている。

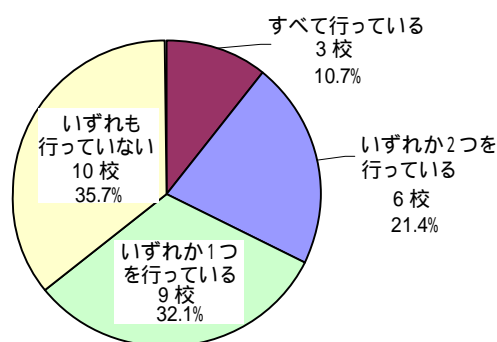
9 ブックトーク：テーマを決めて関連する本を何冊か用意し、順番に紹介していく技法。本の魅力を伝えることによって読書意欲をよびおこす。ストーリーテリングや読み聞かせと異なり、ブックトークそれ自体を楽しむのではなく、聞き手を読む気にさせることによってその目的を達成する。

### 3つの授業支援・学習支援サービスの実施状況

参考資料の推薦

調べ学習資料リストの作成・提供

授業内容に沿った資料の紹介



【3つのサービスの校数別実施比率】

「参考資料の推薦」「調べ学習資料リストの作成・提供」「授業内容に沿った資料の紹介」サービスについて、「3つすべてに取り組んでいる」という回答が得られた小学校は3校（10.7%）でした。「いずれか2つを実施している」という回答の小学校は6校（21.4%）、「いずれか1つを実施している」という小学校は9校（32.1%）、いずれも行っていないという小学校は10校（35.7%）という状況でした。

〔3つのサービスの校数別実施状況〕

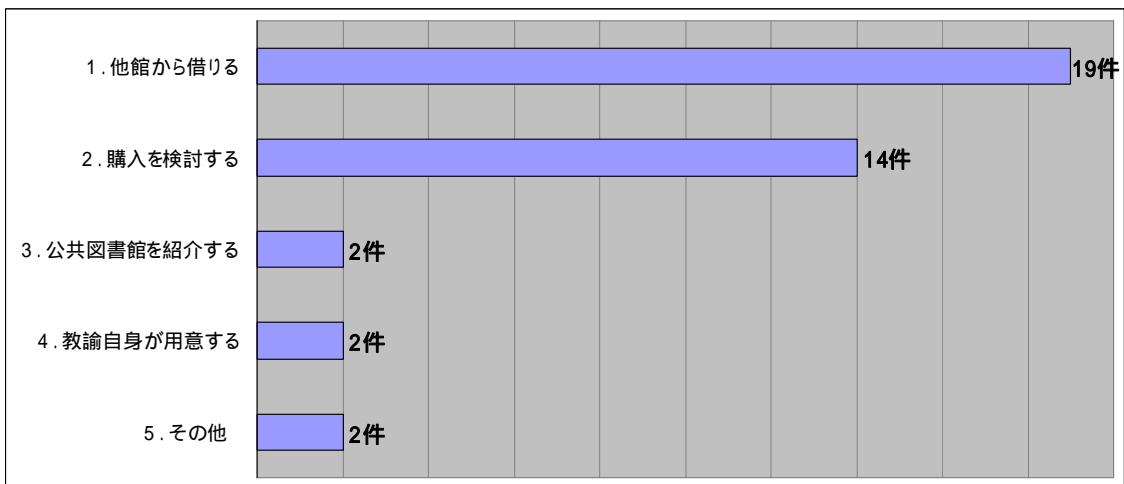
すべて行っている	3校	10.7%
いずれか2つを行っている	6校	21.4%
いずれか1つを行っている	9校	32.1%
いずれも行っていない	10校	35.7%

### (8) 希望資料を所蔵していなかった場合の対応

学校図書館に希望の資料を所蔵していなかった場合の対応については、「他館から借りる」という対応が最も多く 19 件、次いで、自館の所蔵資料として「購入を検討する」という対応が 14 件でした（複数回答）。

「公共図書館を紹介する」、「教諭自身で用意する」という回答も見られました。

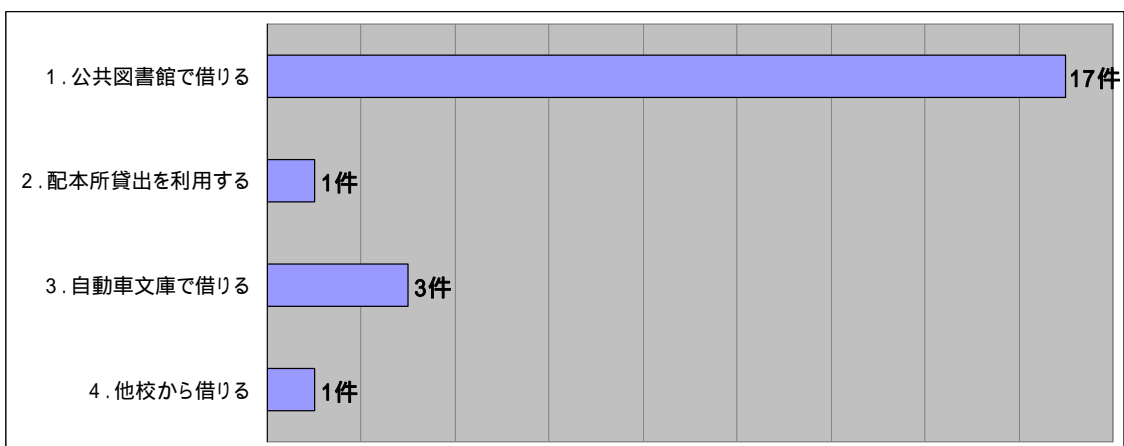
【所蔵資料がない場合の件数別対応状況】



他館から資料を借り受ける場合の内訳については、「公共図書館で借りる」という回答が最も多く 17 件、他に「配本所貸出を利用する」という回答が 1 件、「公共図書館の自動車文庫で借りる」という回答が 3 件と、何らかの方法で公共図書館の資料を活用することで要望に答えているという状況がうかがえます（複数回答）。

また、「他校の学校図書館から借りる」という回答も 1 件見られました。

【他館から資料を借り受ける場合の件数別内訳】



### 3. 学校図書館情報処理環境調査

#### (1) 学校図書館管理システムの導入状況

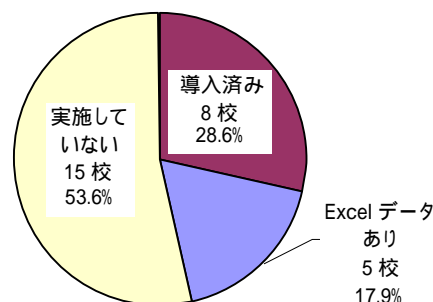
##### 所蔵資料のデータベース化(10)の実施状況

学校図書館の所蔵資料のデータベース化の進捗状況については、既に蔵書のデータベース化を終えてコンピューター・システム(スタンドアローン・スタイル)を活用している小学校が8校(28.6%)という状況でした。

文部科学省による「平成22年度『学校図書館の現状に関する調査』結果」で公表された蔵書をデータベース化している小学校の割合51.2%と比べて22.6ポイント低い割合となっています。

また、同調査による全国の小学校のうち「当該電子管理システムを活用して貸出・返却を行っている学校」の割合41.1%と比べると、12.5ポイント下回っているという状況でした。

コンピューター・システムを活用していない小学校については、データベース化は実施していないものの、資料一覧をExcelで作成している小学校が5校(17.9%)、データベース化は実施していない小学校が15校(53.6%)で、半数以上の小学校において所蔵資料のデータベース化が実施されていないという状況でした。



【学校図書館管理システム導入比率】

〔学校図書館管理システム導入状況〕

システム導入済み	8校	28.6%
Excel データを作成している	5校	17.9%
データベース化を実施していない	15校	53.6%

10 所蔵資料のデータベース化：所蔵資料をコンピューター・システムで管理できるようにすること。所蔵資料をデータベース化すると、貸出・返却処理をシステムを用いて実施するので、正確な利用状況をリアルタイムに把握することができる、本を探すために実際に棚に行かなくても、書名や著者名、キーワードなど様々な項目で資料を検索することができる、貸出や蔵書構成などの統計資料を簡単に作成することができる、というメリットがある。自校の学校図書館のみの閉じられたPC環境で活用するスタンドアローン・スタイルと、他校の学校図書館や公共図書館とシステムを共有し、ネットワークを構築するスタイルに分けられる。

11 (p.44) 学校図書館のネットワーク化：他の小中学校の学校図書館や公共図書館をオンラインで結び、システムを共有するネットワークを構築すること。自校の学校図書館だけでなく、他の小中学校の蔵書も横断的に検索でき、学校間で蔵書を相互利用することができる、学校間だけでなく公共図書館の蔵書も網羅的に検索することができる、公共図書館の書誌データを利用した資料登録が可能になる、などのメリットがある。近年、特に文部科学省による「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」(平成16～平成18年度)等を契機にネットワークを構築する事例が増加している。

## 学校図書館管理システム導入状況

学校図書館の管理にコンピューター・システム（スタンドアローン・スタイル）を導入済みの8校で使用されているシステムと主な機能を次の表にまとめました。

〔学校図書館管理システム導入校別機能一覧〕

学校名	管理システム	キーワード検索	統計機能	予約
東小学校	MAJOR SCHOOL SYSTEM	可	可	可
鶴山小学校	V Liv	不可	なし	可
弥生小学校	探検隊	可(2006年出版まで)	分類別冊数、貸出冊数	可
佐良山小学校	探検隊	不可	ランキング	可
一宮小学校	探検隊	可	分類別冊数、貸出冊数 ランキング	可
高野小学校	独自システム (Excel)	不可	なし	可
河辺小学校	「文籍(MonJack)」 (フリーソフト)	可	なし	可
大崎小学校	独自システム (Excel)	不可(書名検索は可)	なし	可

8校のうち5校が既製の学校図書館管理システムを使用しています。

- ・「探検隊」(株式会社トーハン・コンピュータ・サービス製)・・・3校
- ・「MAJOR SCHOOL SYSTEM」(日本システック株式会社製)・・・1校
- ・「文籍(MonJack)」(フリーソフト)・・・1校
- ・「V Liv」(製造者不明)・・・1校

他の2校は、Excelを活用して独自に製作したシステムを使用していました。

資料のキーワード検索については、キーワード検索ができる小学校が3校、2006年までに出版された図書についてはキーワード検索ができる小学校が1校、キーワード検索ができない小学校が4校という状況でした。

統計機能については、「MAJOR SCHOOL SYSTEM」と「探検隊」にはその機能がありますが、それ以外のシステムでは統計機能を備えていないという状況でした。

### 未導入校の資料検索

学校図書館の管理にコンピューター・システム（スタンドアローン・スタイル）を導入していない小学校のうち、データベース化は実施していないものの、資料一覧をExcelで作成している学校が5校ありましたが、図書台帳と数やデータが一致しておらず、不明資料を把握できていないという状況が多く見られました。

所蔵資料のデータベース化を実施していない学校では、紙媒体の台帳が目録を兼ねており、資料検索の手段になっているものの、次のような問題点があげられました。

〔未導入校における資料検索上の問題点の事例〕

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・台帳に記載されている資料が書架にない場合もある。</li> <li>・分類記号が間違っていたり、不明本も含まれていたりする。</li> <li>・紛失本が把握しきれない。</li> <li>・資料がすぐに見つからない。</li> <li>・書架を直接見に行った方が早い。</li> </ul> |
|--|



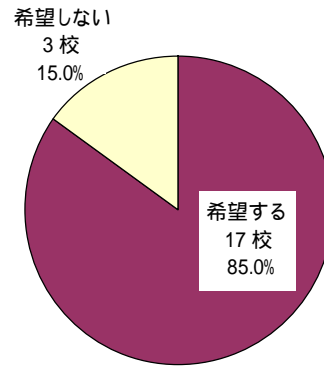
### 未導入校の所蔵資料データベース化への意向

現在学校図書館管理システムを導入していない20校のうち、所蔵資料のデータベース化を「希望する」という回答の小学校は17校(85%)でした。

所蔵資料のデータベース化を「希望しない」という回答の小学校は3校(15%)でした。

〔データベース化への意向〕

希望する	17校	85%
希望しない	3校	15%



【データベース化導入希望比率】

所蔵資料のデータベース化を希望する理由としては、主に次の点があげられました。  
〔データベース化を希望する理由〕

- ・所蔵資料を正確に把握したいので、無料ソフトでもよいから導入したい。
- ・全校システム統一化のために、市立図書館に合うシステムを入れたい。
- ・現状では予約の管理が大変だから導入したい。
- ・データベース化されると便利だと思う。

反対に、所蔵資料のデータベース化を希望しない理由としては、主に次の点があげられました。

〔データベース化を希望しない理由〕

- ・今のままで間に合っているから。
- ・貸出を止めて、蔵書をチェックする必要があるから。
- ・所蔵している資料は古いものばかりだから。
- ・労力面で心配だから。

また、所蔵資料のデータベース化の懸念事項としては、次の点があげられました。

〔データベース化の懸念事項〕 複数回答

作業の労力面で心配	8件
費用の点で心配	5件
導入時の手間が心配、導入するまでが大変	2件
導入時の勤務時間の調整が心配	1件
導入後のシステム管理などの面が心配	1件
システムを使いこなせるかが心配	1件
全校で導入できるかどうかが大変	1件

作業の労力や費用の点が懸念事項として多くあげられました。

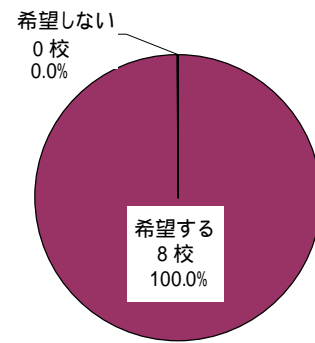
### 導入校のネットワーク化（11,p41）への意向

現在、学校図書館管理システム(スタンドアロン・スタイル)を導入している8校のうち、すべての小学校から学校図書館のネットワーク化を「希望する」という回答が得られました。

学校図書館のネットワーク化を「希望しない」という小学校はありませんでした。

〔ネットワーク化への意向〕

希望する	8校	100%
希望しない	0校	0%



【ネットワーク化導入希望比率】

学校図書館のネットワーク化を希望する理由としては、主に次の点があげられました。

〔学校図書館のネットワーク化を希望する理由〕

- ・相互貸借時の物流方法が心配だが、ネットワーク化されると便利だと思うから協力したい。
- ・管理システムを統一すれば便利になるし、資料を活かすこともできると思うから。

また、学校図書館のネットワーク化の懸念事項としては、次の点があげられました。

〔学校図書館のネットワーク化の懸念事項〕

- ・財源の確保や導入の準備が大変だと思う。
- ・労力面が心配である。
- ・資料の相互貸借に向けた運用のルール化が必要だと思う。(自校と他校の要望の調整など)
- ・相互貸借の物流方法が確立されていない。
- ・現在のシステムと別のシステムが導入されることには負担を感じる。

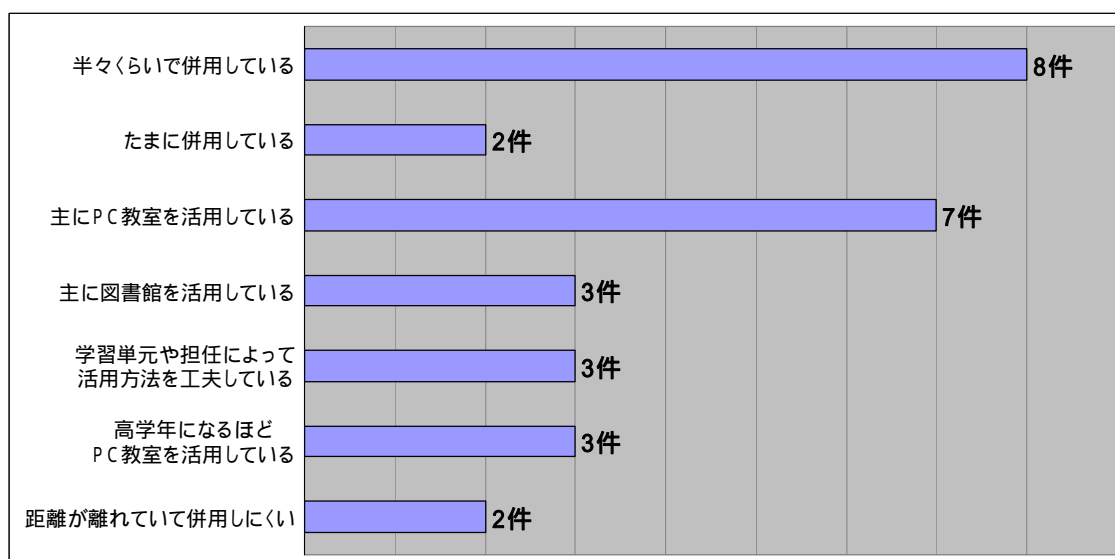
## (2) コンピューター教室、普通教室、学校図書館の校内LAN状況

### コンピューター教室と学校図書館との活用状況

すべての小学校において、調べ学習に取り組む場合には、コンピューター教室を活用して授業が展開されているようです。

調べ学習を実施する際の、コンピューター教室と学校図書館との併用については、コンピューター教室と学校図書館を「半々くらいで活用している」という回答が8件と最も多く、次いで「主にコンピューター教室を活用している」という回答が7件という状況でした。「主に図書館を活用している」という回答は3件ありました。また、「学習単元や担任によって活用方法を工夫している」という回答が3件、「高学年になるほどコンピューター教室を活用している」という回答が3件ありました。他に、施設的环境として、コンピューター教室と学校図書館とが「離れていて併用しにくい」という回答が2件ありました。(複数回答)

【コンピューター教室と学校図書館との活用状況】



### 普通教室のインターネット接続PCの設置状況

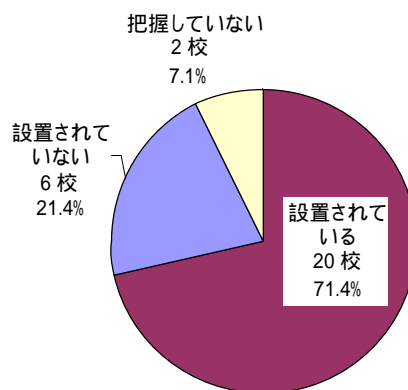
普通教室へのインターネット接続PCの設置状況については、「設置されている」という回答が20校(71.4%)、「設置されていない」という回答が6校(21.4%)、「把握していない」という回答が2校(7.1%)から得られました。

約7割の小学校において普通教室にインターネット接続PCが設置されている状況がうかがえます。

また、普通教室にインターネット接続PCは設置されていないものの、必要に応じてノートPCを持ち込んで授業に活用しているという回答の小学校もありました。

〔普通教室のPC設置状況〕

設置されている	20校	71.4%
設置されていない	6校	21.4%
把握していない	2校	7.1%



【普通教室のPC設置比率】

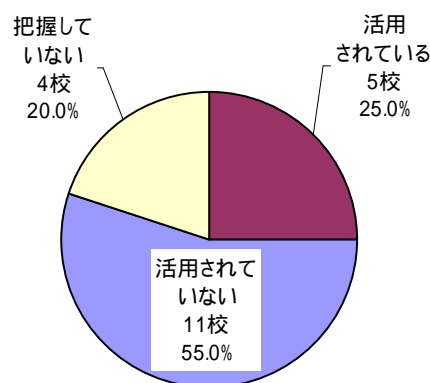
### 普通教室のインターネット接続PCの授業への活用状況

普通学級へインターネット接続PCが設置されている20校のうち、実際の授業において「活用されている」という回答が5校(25.0%)、「活用されていない」という回答が11校(55.0%)、「把握していない」という回答が4校(20.0%)から得られました。

約5割の小学校においては、普通教室のインターネット接続設置PCは、あまり活発には活用されていないという様子が見えます。

〔インターネット用PCの活用状況〕

活用されている	5校	25.0%
活用されていない	11校	55.0%
把握していない	4校	20.0%

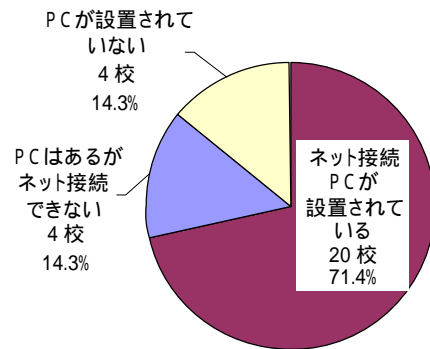


【インターネットPCの活用比率】

### 学校図書館のインターネット接続PCの設置状況

学校図書館へのPC設置状況については、24校からPCが設置されているという回答が得られました。

そのうち、「インターネットに接続できるPCが設置されている」という回答の小学校は20校（71.4%）、「PCは設置されているもののインターネットに接続できない」という回答の小学校が4校（14.3%）、「学校図書館にはPCが設置されていない」という回答の小学校が4校（14.3%）という状況でした。



【学校図書館のインターネットPCの設置比率】

学校図書館へPCが設置されている小学校のPCの台数は、コンピューター教室と学校図書館とが併設されている小学校も含めて平均すると3.4台でした。併設の小学校を除いた平均台数は1.3台でした。

〔学校図書館のインターネット用PCの設置状況〕

ネット接続PCが設置されている	20校	71.4%
PCはあるがネット接続できない	4校	14.3%
PCが設置されていない	4校	14.3%

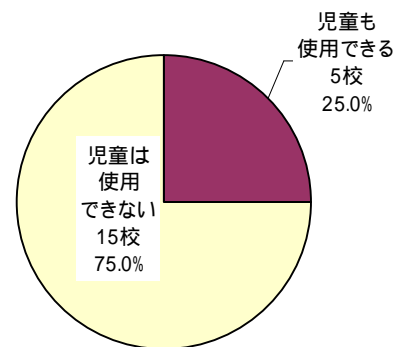
### 学校図書館のインターネット接続PCの児童の利用状況

学校図書館に設置されているインターネット接続PCについて、「児童が利用できる」という回答の小学校は5校（25%）、「児童は利用できない」という回答の小学校は15校（75%）という状況でした。

児童に利用させていない理由としては、児童によるいたずら防止や破損防止が多くあげられました。

〔インターネット用PCの児童の利用状況〕

児童も利用できる	5校	25.0%
児童は利用できない	15校	75.0%



【児童のインターネットPCの利用比率】

### (3) 他館との連携状況

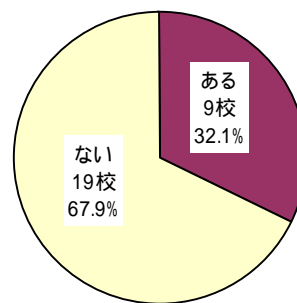
#### 他校図書館との連携

他校図書館との連携が「ある」という回答の小学校は 9 校（32.1%）で、すべて「学校司書」が配置されている小学校でした。

「ない」という回答の小学校は 19 校（67.9%）で、すべて「図書整理員」が配置されている小学校でした。

他校図書館との連携が「ある」という回答の小学校の、他校の資料の把握・検索手段としては、司書会での情報交換や電話での問い合わせ、直接現地に訪問して書架検索をするほか、前任校の蔵書の概要を把握して頼りにするというものがあげられていました。

資料借用の依頼方法としては、司書会での声かけ、電話、直接訪問があげられていました。借り受け先としては、前任校、同じ校区内の中学校や、他自治体から借り受けることもあるという状況でした。



【他校図書館との連携比率】

〔他校図書館との連携状況〕

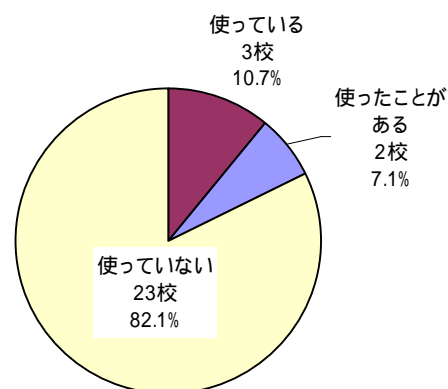
ある	9校	32.1%
ない	19校	67.9%

#### 公共図書館との連携

公共図書館との連携については、すべての学校図書館において、団体貸出や配本所貸出の利用を中心として、市立図書館のサービスが活用されています。

#### 《インターネット予約の活用状況》

市立図書館のインターネット予約サービスの利用状況については、「使っている」という回答の小学校が 3 校（10.7%）、「使ったことがある」という回答の小学校が 2 校（7.1%）、「使っていない」という回答の小学校が最も多く 23 校（82.1%）という状況でした。



【インターネット予約の利用比率】

〔インターネット予約の利用状況〕

使っている	3校	10.7%
使ったことがある	2校	7.1%
使っていない	23校	82.1%

市立図書館のインターネット予約サービスを利用していない理由としては、次の点があげられました。

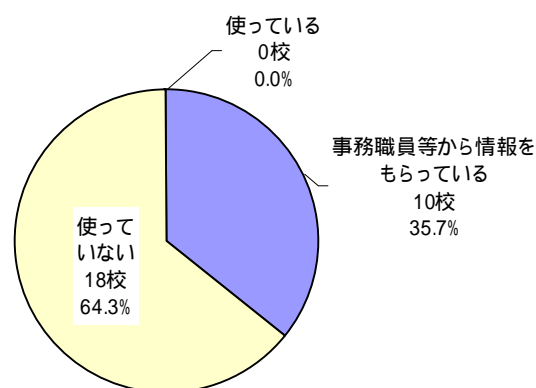
〔インターネット予約を利用していない理由〕 複数回答

直接公共図書館に借りに行く	7件
電話かFAXで依頼する	3件
インターネット予約の方法を知らなかった	4件
学校図書館でPCが使えない	2件
PC操作がスキルや環境の点で困難	4件
そこまで資料を必要としていない(需要がない)	5件

### 《メールリストの活用状況》

学校図書館におけるメールリストの活用状況については、「使っている」という回答の小学校は1校もありませんでした。

学校司書または図書整理員が直接アクセスはしないが「事務職員等から（メール配信情報をもっている）」という回答の小学校が10校（35.7%）、「使っていない」という回答の小学校が18校（64.3%）という状況でした。



〔メールリストの活用状況〕

使っている	0校	0%
事務職員等から情報をもろう	10校	35.7%
使っていない	18校	64.3%

メールリストを活用していない理由としては、次の点があげられました。

〔メールリストを活用していない理由〕 複数回答

時間的な余裕がない	5件
配信情報を教えてもらっている	10件
図書館のPC環境が整っていない	4件
メールリストの存在を知らなかった	11件
誰が依頼に対応するか不明	1件

## 4. 学校図書館地域社会連携状況調査

### (1) 地域人材の活用状況

#### 学校図書館におけるボランティアの活動状況

学校図書館において、「ボランティア活動を活用している」という回答の小学校は 24 校（85.7%）でした。文部科学省による「平成 22 年度『学校図書館の現状に関する調査』結果」にて公表されている、全国の小学校におけるボランティアを活用している割合は 78.7%で、これと比べて7ポイント高いという状況です。

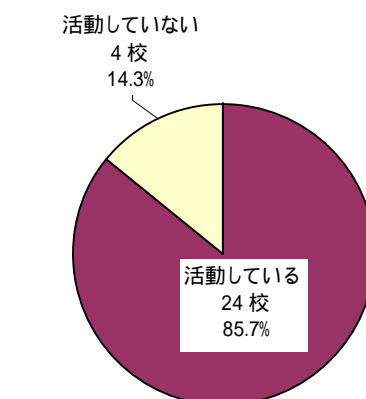
「ボランティア活動を活用していない」という回答の小学校は 4 校（14.3%）で、そのうち、募集を検討している小学校が 1 校ありました。全 28 校のうち約 9 割近い小学校でボランティア活動を活用している状況がうかがえました。

#### 〔学校図書館ボランティア活動状況〕

活動している	24 校	85.7%
活動していない	4 校	14.3%

ボランティア活動に携わる人数としては、5～10 名が最も多く、ボランティア活動を活用している 24 校のうち 10 校でした。4 名以下の少人数で活動している小学校が 5 校、そのうち、活動人数が 1 名という小学校が 2 校ありました。

最も活動人数の多い小学校では、活動人数が 20 名でした。



【学校図書館ボランティア活動比率】

#### 〔活動しているボランティアの人数〕

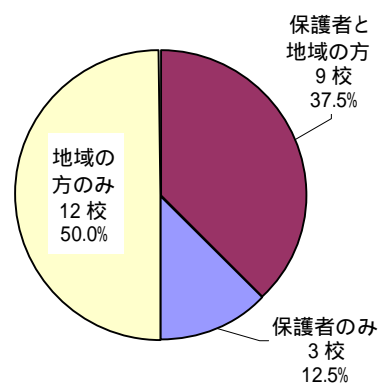
1 名	2 校
2 名	1 校
3～4 名	2 校
5～10 名	10 校
11 名以上	1 校
把握していない	8 校

#### 学校図書館におけるボランティア活動を担う人々

ボランティア活動を活用している 24 校の活動者の内訳を見てみると、「保護者ボランティアと地域ボランティアの両方を活用している」という回答の小学校が 9 校（37.5%）、「保護者ボランティアのみ」という回答の小学校が 3 校（12.5%）、「地域ボランティアのみ」という回答の小学校が 12 校（50.0%）という状況でした。

#### 〔学校図書館ボランティア活動の担い手状況〕

保護者と地域の方両方	9 校	37.5%
保護者のみ	3 校	12.5%
地域の方のみ	12 校	50.0%



【学校図書館ボランティア担い手比率】



## 学校図書館におけるボランティア活動の内容

学校図書館におけるボランティアの活動内容については、ボランティア活動を活用している24校すべての小学校において、「読み聞かせ」が実施されていました。

「読み聞かせ」の次に多い活動実績としては、「ストーリーテリング」が3件、「ブックトーク」が3件という状況でした。

「その他」の活動内容としては、学校図書館の所蔵資料のデータベース化作業を実施している学校が1校、図書が1校という活用状況でした。

〔ボランティア活動内容〕 複数回答

読み聞かせ	24件
朗読	1件
ストーリーテリング	3件
エプロンシアター・パネルシアター	2件
ブックトーク	3件
イベント	2件
その他	2件

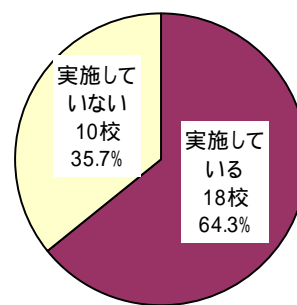
## 〔各校の読書推進活動におけるボランティアの活用状況〕

	学校名	活動者	活動内容	その他の学校支援
1	東小学校	地域・保護者 7~10名程度	・読み聞かせ(読書週間:1~3年) ・夏休みイベント ・学校図書館データベース化作業	・授業の補助(家庭科;稲づくり) ・委員会補助 ・見守り隊
2	西小学校	地域1名、保護者	・地域:週1回(水曜) ・保護者:学期1~2回 (読み聞かせ,ブックトーク,ストーリーテリング)	なし
3	南小学校	なし	-	・見守り隊
4	北小学校	地域(「津山朗読ボランティアの会」)20名程度	・読書週間(年3回) (読み聞かせ,朗読,エプロンシアター)	なし
5	林田小学校	保護者・地域(「みんなみずく」)8名	・週1回(水曜の午前) 読み聞かせ(1~4年生) ・図書の整備(「かけはし文庫」受入時)	なし
6	鶴山小学校	保護者・地域2名	・年1回(図書の時間) 読み聞かせ(1・2年生)	不明
7	弥生小学校	保護者10名程度	・年50回 読み聞かせ	・クラブ活動の指導 ・田植え補助 ・授業の補助(美作大生など)
8	向陽小学校	保護者・地域8名程度	・月2回(金曜) 読み聞かせ(1~4年生)	・草木の世話 ・見守り隊
9	院庄小学校	保護者4名	・週1回(木曜の朝) 読み聞かせ	・授業の補助(家庭科、総合;注連縄・昔体験) ・見守り隊
10	佐良山小学校	保護者8名	・週2回(火・木) 読み聞かせ(全学年)	・清掃 ・囲碁の指導
11	一宮小学校	地域(「一宮小学校読み聞かせの会」)	・週1回(年30回、1・2年生) (読み聞かせ,パネルシアター)	・学校支援ボランティア
12	高田小学校	保護者・地域	・年30回(週2回) 読み聞かせ	・授業の補助 ・地域学習の講師 ・見守り隊
13	清泉小学校	保護者・地域(「おはなしなあに」)	・月1回(昼休み) 読み聞かせ	・田植えの合鴨農法(合鴨の飼育・5年) ・昔遊び ・見守り隊
14	高倉小学校	なし	-	・授業やクラブの補助 ・草木の手入れ ・見守り隊

	学校名	活動者	活動内容	その他の学校支援
15	高野小学校	地域(「みんなの文庫」)	・読書週間(年3回) 読み聞かせ(全学年)	・さわやか教室(大正琴・歌・読み聞かせなど) ・学級支援ボランティア
16	成名小学校	なし	-	・昔遊び指導 ・川遊び指導
17	河辺小学校	地域 5名	・週2回 読み聞かせ(1~4年生)	なし
18	大崎小学校	地域 6名	・水曜日(年10回)読み聞かせ ・おたのしみ会(年2~3回、クリスマス)	・花壇の整備 ・華道クラブ補助 ・飾り、昔遊びの指導
19	広野小学校	地域 1名	・学期2回 読み聞かせ	・見守り隊 ・農業・とんどの指導協力 ・ふれあい会(昔遊び) ・参観日待ち時間の児童の世話
20	加茂小学校	地域 1名	・月4回 (読み聞かせ,ストーリーング)	・掃除の手伝い ・授業の補助(家庭科、給食)
21	阿波小学校	保護者・地域 5名	・月2回 読み聞かせ	・石取り ・草取り ・交通安全時の指導員
22	新野小学校	(検討中)	-	・スクールガード ・畑・田んぼ体験指導
23	広戸小学校	地域(「勝北ブックくらぶ」)	・週1回(木曜、1・2年) (読み聞かせ,ストーリーング)	・参観日終了後の児童の世話 ・見守りパトロール
24	勝加茂小学校	地域 3名	・月2回 読み聞かせ	・昔遊び ・見守り隊
25	喬松小学校	地域(「たんぼぼの家」)	・学期1回 (読み聞かせ,ブックトーク)	・草木の世話 ・地域の歴史(岩屋城)・和琴の指導 ・見守り隊
26	中正小学校	地域(「たんぼぼの家」)8名程度	・年9回 (読み聞かせ,ブックトーク)	・草取り
27	誠道小学校	保護者・地域(「たんぼぼの家」)	・月1回 読み聞かせ	・農業体験 ・スクールガード
28	秀実小学校	地域 4~5名	・月2回 読み聞かせ	・参観日終了後の児童の世話(読み聞かせなど)

## (2) 地域・家庭と連携した読書推進活動の実施状況

各校における地域社会や家庭と連携した読書推進活動の実施状況については、「実施している」という回答が18校(64.3%)、「実施していない」という回答が10校(35.7%)という状況でした。



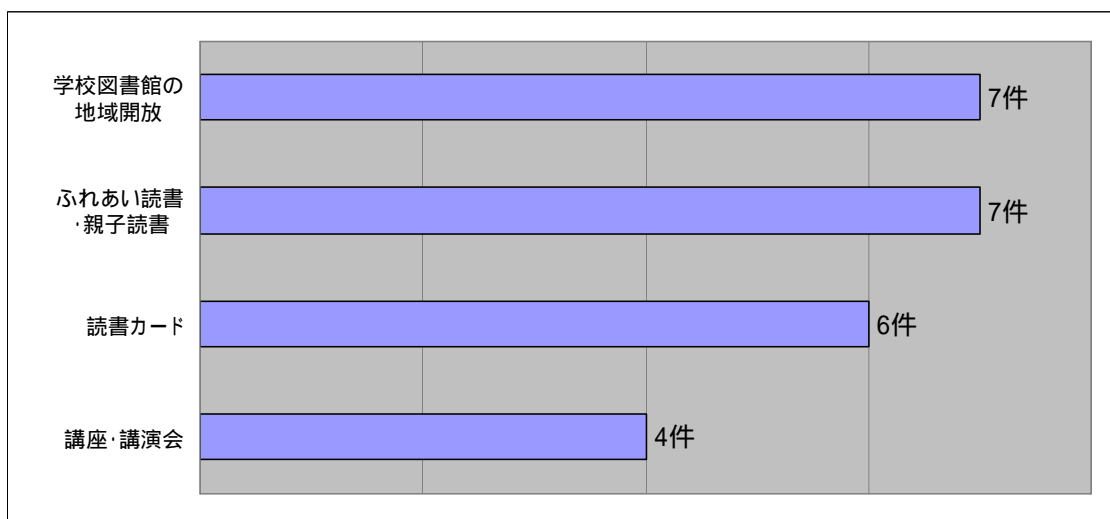
〔読書推進活動の実施状況〕

実施している	18校	64.3%
実施していない	10校	35.7%

【読書推進活動の実施比率】

地域・家庭と連携した読書推進活動を実施している18校の活動内容をの内訳を見ると、夏休み期間中や参観日を活用した「学校図書館の地域開放」を実施しているという回答が7件、家庭で保護者と一緒に本を読み、記録をつける等の「ふれあい読書」・「親子読書」の活動を実施しているという回答が7件と多くあげられました。次いで、児童が読んだ本の記録をつけ、家庭でもチェックしてもらう等の「読書カード」の活動が6件、講座や講演会の実施が4件あげられました。

【地域・家庭と連携した読書推進活動の内容】 複数回答



[各校における読書推進活動]

	学校名	読書推進活動	地域・家庭連携活動	図書委員会活動	朝読書
1	東小学校	・読書週間(4・6・9・1月) ・図書委員会による読み聞かせ、読書クイズ、おすすめカード	・地域開放:夏休み開館中 ・ふれあい読書(毎日家で読んだ本を記録して先生に提出する。多読者表彰。)	・貸出返却、集計 ・読書週間 ・督促	・読書週間(4・6・9・1月) ・読書、読み聞かせ
2	西小学校	・読書週間(6・1月) ・全校読書 高学年:「読書2000ページ」 低学年:「30冊読もう」	(学校だよりや学級だよりなどで読書の呼びかけ)	・貸出返却 ・読書週間	・週4回(月・火・水・金) ・読書、1年生は紙芝居あり
3	南小学校	・読書週間	・読書カード (カードに読んだ本の題名を記入し、保護者がチェックし、先生に提出する。)	・貸出返却 ・梅雨の読書週間に低学年へ紙芝居	・週1回 ・読書、図書委員による低学年への紙芝居
4	北小学校	・読書週間	・地域開放:参観日、夏休み	・貸出返却 ・書架整理 ・全校集会(本の紹介など、年2回) ・読書週間(「読書がんばりカード」)	・週1回(火)読書タイムだった 「教えて考えさせる」の研究事業実施のため現在は実施していない
5	林田小学校	・読書週間(6月・秋・冬) ・「学年別オススメリスト」: リスト(司書が選書し教員がチェック)を配り読書記録をつける 掲載図書を書架に並べておく	・「林田子ども教室」(放課後子ども教室) 月2回(土)9:00~12:00 読書・学習・読み聞かせ・紙芝居・工作	・貸出返却 ・読書週間	・1~4年:週3回(月・火・水) 読書、音読朗読、読み聞かせ(ボランティア) ・5・6年:週2回(月・火) 読書、音読朗読
6	鶴山小学校	・読書週間(「読書祭り」、年2~3回) 「1年生に読んで欲しい本」: 自分が読んだ本をで3段階評価する	・地域開放:夏休み開館中 (その他の連携活動を計画中)	・貸出返却 ・予約(お知らせ) ・朝読、BMの呼びかけ(火・水) ・読書週間(「読書祭り」)	・週2回(火・水) ・読書、読み聞かせ、朗読
7	弥生小学校	・読書週間(6月・11月) ・5年生:「読書1万ページの旅」		・貸出返却 ・読書週間 ・雨の日に読み聞かせ	・週2回 ・読書、読み聞かせ
8	向陽小学校	・読書週間(6月・11月・2月) ・学年別オススメ読書	・「大人の学校」(生涯学習課主催市民講座) 月1回、地域の歴史を学ぶ	・貸出返却 ・読書週間 ・オリエンテーション	・週1回(金) ・読書、紙芝居、読み聞かせ
9	院庄小学校	・読書週間(6・11・2月) 「学年別オススメ本」(年間100冊読破を目標)		・貸出返却 ・貸出の統計 ・読書週間	・週1~2回 ・読書、読み聞かせ
10	佐良山小学校	・読書週間(学期1回)		・貸出返却 ・読書週間	・週2回(火・水) ・低学年:読み聞かせ(ボランティア)、高学年:読書
11	一宮小学校	・読書週間(6月・11月・3学期) ・読書カード ・6年生:読書1万ページ		・貸出返却 ・読書週間 ・集会での本の紹介	・週1~2回 ・読書
12	高田小学校	・読書週間(学期1回)		・貸出返却 ・読書週間	・週2回(水・金) ・読書、読み聞かせ(ボランティア)

	学校名	読書推進活動	地域・家庭連携活動	図書委員会活動	朝読書
13	清泉小学校	・読書週間(年2回) ・百人一首大会(年1回) ・「読書1万ページの旅」 ・3年:「読書貯金」(読んだページ数を貯金する)	・地域開放:夏休み開館中 ・ふれあい読書(年2回)	・貸出返却 ・読書週間 ・校内放送 ・百人一首大会(年1回)	・週1回(金) ・読書、読み聞かせ(図書委員)
14	高倉小学校	・読書週間(年2回)「お話宅急便」 (先生方が担当学級以外のクラスで読み聞かせ)	・公民館講座 (保護者を対象とした読書推進講座(読み聞かせ等)を実施、年3回)	・貸出返却 ・読書週間 ・読み聞かせ(昼休み) ・新刊紹介(全校朝の会)	・週2回(月・火) ・読書、読み聞かせ(1年生の1学期)
15	高野小学校	・読書週間(6・11月)	・地域開放:夏休み開館中	・貸出返却 ・読書週間(紙芝居)	・読書週間中 ・読書、読み聞かせ(低学年)
16	成名小学校	・読書週間(毎月)	・参観日などに借りていかれる場合もある	・貸出返却(月・火・金の登校時) ・図書館だより ・読書クイズ、紙芝居(委員会時)	・読書週間(毎月) ・読書
17	河辺小学校	・読書週間(毎月)	・地域開放:夏休み開館中 ・読書カード (カードに読んだ本の題名を記入し、保護者がチェックし、先生に提出する。)	・貸出返却 ・書架の整理 ・読書週間	・読書週間中(毎月) ・読書
18	大崎小学校	・読書週間(半期に1~2回)		・貸出返却 ・マナー呼びかけ ・読書週間	・週2回(水・金) ・読書、「読み届け」(ボランティア)
19	広野小学校	・読書週間(6月・11月)	・親子読書の記録 ・講演会(PTA活動)読み聞かせ	・貸出返却 ・クイズとしおり作成 ・読書週間(紙芝居) ・出張紙芝居(火・木の朝、低学年) ・心に残った1冊コーナー	・週1回(水) ・読書、読み聞かせ(ボランティア)
20	加茂小学校	・読書週間(学期1回)	・ふれあい読書 (家の人と一緒に本を読んで記録し、学校に提出する。)	・貸出返却 ・読書週間(読み聞かせ) ・読み聞かせ(火曜の朝) ・しおり作成 ・ポスター作成	・学期1回 ・読書
21	阿波小学校	・「津山っ子おすすめ読書カード」	・読書カード	・貸出返却 ・ポスター掲示 ・新刊案内(朝礼・給食時) ・図書集会(年1回)	・週1回 ・読書、読み聞かせ(ボランティア)
22	新野小学校	・読書週間(6月・11月・2月)		・貸出返却 ・読書週間	・週1回(木) ・読書、読み聞かせ
23	広戸小学校	・読書週間(6月・秋・冬) ・「必読図書」をクラス置き(前後期各20冊、読んだらチェックして、先生に提出する)	・地域開放 ・ふれあい読書 (家の人と一緒に本を読んで記録し、学校に提出する。)	・貸出返却 ・図書だより ・新刊案内(朝礼) ・読書週間 ・読み聞かせ(雨の日・読書週間)	・週4回(火~金) ・低学年:紙芝居(図書委員)、中・高学年:読書
24	勝加茂小学校	・読書週間(「津山っ子おすすめ読書カード」) ・学年別オススメ読書	・親子読書週間(年1回) (家庭で読んだ読書記録を学校に提出する。)	・新刊案内(児童朝礼) ・人気本の集計 ・読み聞かせ(行間休み)	・週1回(木) ・読書、読み聞かせ(ボランティア)

	学校名	読書推進活動	地域・家庭連携活動	図書委員会活動	朝読書
25	喬松小学校	・読書週間(6月)		・貸出返却 ・督促 ・読書週間 ・クリスマス行事で読み聞かせ	・週4回(火～金) ・読書
26	中正小学校	・読書週間(6月・11月)	・読書カード (保護者にサインをもらい先生に提出する。)	・貸出・返却・督促 ・新刊案内(放送・掲示) ・読書週間	・週4回(火～金) ・低学年:読み聞かせ(図書委員)、中・高学年:読書
27	誠道小学校	・読書週間	・親子読書	・貸出返却 ・低学年へ読み聞かせ ・読書週間	・週1回(金) ・読書
28	秀実小学校	・読書週間(2学期) ・さくら文庫 (各クラス20冊ずつ、朝読書用、授業の参考資料など)	・読書カード	・貸出返却 ・本の紹介 ・読み聞かせ補助(低学年) ・読書週間	・週1回(月) ・読書、読み聞かせ(ボランティア)